

科目基本情報	科目名 エコロジーの思想	期別	曜日・時限	単位
	担当者 村井 忠康	前期	木 2	2
		対象年次 1年	授業に関する問い合わせ 研究室5503 t.murai@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 今日では「地球にやさしい」といったフレーズがふつうに使われ、環境に配慮したゴミの分別回収はかなり厳しくおこなわれるようになってきました。このように私たちは、環境問題の考慮抜きにしては成り立たない社会で暮らしています。この授業では、こうした私たちのあり方を、エコロジーの思想あるいは環境哲学の主題として捉えてきたさまざまな立場を概観します。	メッセージ 自然環境と社会環境はどう違うのか、現代ではもう区別できないのでは、といった疑問をもつ人、エコロジーばかり気にしているは社会が豊かにならないしと思う人もいるかもしれません。そういう人こそ、一緒に「環境」や「豊かな社会」の意味について考えてみましょう。
	到達目標 ①環境問題という具体的な問題が哲学・思想の主題になりうるのはなぜかを理解できるようになる。 ②環境思想・哲学が私たち人間の生き方についての学問であることを理解できるようになる。 ③環境問題について、具体例に即しつつも抽象的・概念的レベルで考えることができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：この授業の概要とスケジュールについて	配布資料を読む
	2	エコロジー運動からエコロジー思想へ	配布資料を読む
	3	そもそも環境とは何か	配布資料を読む
	4	環境哲学、環境倫理学、エコロジー思想の関係	配布資料を読む
	5	ディーブ・エコロジー	配布資料を読む
	6	ソーシャル・エコロジー	配布資料を読む
	7	エコフェミニズム	配布資料を読む
	8	エコ社会主義	配布資料を読む
	9	〈自然的であること〉と〈社会的であること〉	配布資料を読む
	10	和辻の風土論	配布資料を読む
	11	ベルクの風土論	配布資料を読む
	12	環境哲学の源泉としての環境倫理学	配布資料を読む
	13	拡張する環境哲学：環境美学とは何か	配布資料を読む
	14	環境哲学と人間学	配布資料を読む
	15	まとめと質疑応答	レポート準備
	16	予備日	
	テキスト・参考文献・資料など	テキストは指定しません。毎回資料を配布します。参考文献は、入手しやすさや読みやすさ、価格などを考慮しつつ適宜紹介します。ここでは、以下のものを挙げておきます。 尾崎周二・亀山純生・武田一博編『環境思想キーワード』、青木書店、2005年 上柿崇英・尾関周二編『環境哲学と人間学の架橋』、世織書房、2015年	
	学びの手立て	・授業時には、意識的に疑問点を見つけて書き留めるようにしてください。さらに踏み込んで、どうして自分がそうした疑問をもつのか、その理由についても考えてみてください。 ・授業の復習では、扱った内容を振り返るだけでなく、自分なりに文章化して再現することが重要です。これができるようになるにつれて、授業の理解度も上がっていきます。 ・紹介する参考文献のうち、少なくとも一冊は考えながら読み切ってください。疑問のたびに立ち戻ることができる文献ができるなら、レポートの作成で壁にぶち当たったとき必ず役立ちます。	
	評価	リアクションペーパーの提出状況(40%) レポート(60%) ・毎回授業の最後に15分ほどリアクションペーパー記入の時間を設けます。授業内容についてのコメントや疑問を記入して、提出してもらいます。 ・レポートでは具体的な問いを課しますが、授業で紹介した立場への賛否をその理由とともに述べてください。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：「環境の倫理学」、「倫理学Ⅰ」および「同Ⅱ」ほか 次のステージ：さらに環境の思想・哲学に触れてみたいひとは、「環境の倫理学」を履修することをお勧めします。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境の倫理学	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村井 忠康	1年	研究室5503 t.murai@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>環境の哲学は、応用倫理学の一分野としての環境倫理学から始まり、今やそれを含むほどの広い学問領域となりつつあります。しかし、環境倫理学自体もまた、従来の環境問題だけでなく、動物の権利の問題や、宇宙開発に伴う倫理的問題など、その射程は以前の枠組みに収まりきらなくなっています。現代の環境倫理学のもつこの射程の広さを理解することが、この授業のねらいです。</p>	<p>授業中の発言やリアクションペーパーを通じて、自分の考えを言葉にしてみてください。最初は漠然とした考えや表現であっても、教師や出席者との対話を重ねることで次第に明確になっていくものです。また、これは環境倫理学の問題なのではと思われるテーマであれば、積極的に伝えてください。授業の中で一緒に考えてみましょう。</p>
到達目標	<p>①環境倫理学のさまざまな問題について、ポイントを押さえた理解ができるようになる。 ②環境倫理学は具体例に事欠かないが、自分でも問題ごとに適切な例を挙げることができるようになる。 ③概念的・原理的なレベルにまで掘り下げて、環境倫理学の問題について考えることができるようになる。 ④根拠を挙げながら自分の理解や見解を論述できるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：この授業の概要とスケジュール	配布資料を読む
	2	環境倫理学の始まり	配布資料を読む
	3	環境倫理学の射程の広さ	配布資料を読む
	4	人間非中心主義（1）生物中心主義	配布資料を読む
	5	人間非中心主義（2）種差別批判	配布資料を読む
	6	人間中心主義（1）自然の権利？	配布資料を読む
	7	人間中心主義（2）強いかたち	配布資料を読む
	8	人間中心主義（3）弱いかたち	配布資料を読む
	9	人間中心主義（4）キリスト教の場合	配布資料を読む
	10	生命倫理学としての環境倫理学	配布資料を読む
	11	世代間倫理	配布資料を読む
	12	環境正義	配布資料を読む
	13	環境プラグマティズム	配布資料を読む
	14	宇宙倫理学としての環境倫理学	配布資料を読む
15	まとめと質疑応答	レポート準備	
16	予備日		

テキスト・参考文献・資料など

テキストは指定しません。毎回プリントを配布します。参考文献は、授業中に適宜紹介しますが、ここでは、以下のものを挙げておきます。
 高橋広次『環境倫理学入門』、勁草書房、2011年。

学びの手立て

- ・授業時には、意識的に疑問点を見つけて書き留めるようにしてください。さらに踏み込んで、どうして自分がそうした疑問をもつのか、その理由についても考えてみてください。
- ・授業の復習では、扱った内容を振り返るだけでなく、自分なりに文章化して再現することが重要です。これができるようになるにつれて、授業の理解度も上がっていきます。
- ・紹介する参考文献のうち、少なくとも一冊は考えながら読み切ってください。疑問のたびに立ち戻ることができる哲学書ができるなら、レポートの作成で壁にぶち当たったとき必ず役立ちます。

評価

リアクションペーパーの提出状況(40%) レポート(60%)

- ・毎回授業の最後に15分ほどリアクションペーパー記入の時間を設けます。授業内容についてのコメントや疑問を記入して、提出してもらいます。
- ・レポートでは具体的な問いを課しますが、授業で紹介した立場への賛否をその理由とともに述べてください。

学びの継続

次のステージ・関連科目

“関連科目：「エコロジーの思想」、「倫理学Ⅰ」および「同Ⅱ」ほか
 次のステージ：さらに環境倫理学に触れてみたいひとは、関心のあるテーマや問題を教師に伝えてください。適切な文献を紹介します。

※ポリシーとの関連性 「社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能を身に付け、良識を養うための共通科目」の1つである。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	キャンパスライフの心理学	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂志乃、平山篤史、比嘉紀枝、稲田政久、沖育郎、早田あゆみ	1年	前堂志乃 研究室5-431 mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理学の知識や技法、青年期に陥りやすい様々なリスクを学ぶことによって、大学生活への適応を図る。	メッセージ 青年期は、子どもと大人の境界の時期であると言われていています。自分の住む世界が広がり、多様な価値観に触れ、自分の進む道を主体的に決める時期でもあります。この時期には悩むことや行き詰ることもありますが、それは成長のプロセスの中にある証拠ともいえま。講義を通して、心理学の視点から青年期の特徴やこの時期の悩みについて学び、自分の悩みと向き合い、成長に活かしてほしい。
	到達目標 ①大学生活への適応ができる ②青年期の特徴と悩みについて理解できる ③悩みやトラブルに対して対応を考えることができる ④心理学の学びを実生活に活かす視点を養う	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料を読む
	2	青年期の特徴	配布資料の復習・ワークシート
	3	青年期の友人関係	配布資料を読む
	4	キャンパス相談室の紹介と機能	リフレクションシート
	5	コミュニケーションスキルグループワーク①	リフレクションシート
	6	青年期の悩み①（対人不安・人見知り・対人緊張）	リフレクションシート
	7	青年期の悩み②（アイデンティティ・自分らしさ）	リフレクションシート
	8	ディスカッションスキルグループワーク②	リフレクションシート
9	青年期の悩み④（こころの病と発達障害）	リフレクションシート	
10	青年期の悩み⑤（ハラスメント・犯罪・事故対策・ブラックバイト・SNSなど）	リフレクションシート	
11	メンタルヘルスの知識と技法①ストレスマネジメント・リラクゼーション：理論編	リフレクションシート	
12	メンタルヘルスの知識と技法②ストレスマネジメント・リラクゼーション：実践編	リフレクションシート	
13	メンタルヘルスの知識と技法③認知行動療法：理論編	リフレクションシート	
14	メンタルヘルスの知識と技法④認知行動療法：実践編	リフレクションシート	
15	まとめ	リフレクションシート	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。 参考図書は適宜紹介する。		
	学びの手立て ・講義のねらいとして「大学生活への適応を図る」科目であることから、1、2年次を優先して登録する。 ・講義で取り上げる各テーマに対して、自分の日常生活・実体験と照らし合わせて考えてほしい。 ・他の講義で学んでいる（あるいはこれから学ぶ）心理学やその他の学問の理論や効果とどのように関連しているのかを考えるとよい。		
	評価 平常点（講義参加の態度、リフレクションシートの提出状況・内容）…50点 最終レポート内容…50点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学Ⅰ・Ⅱ、各共通科目・専門科目 次のステージ：学んだことを今後の大学生活、大学内外の課外活動で活かし、さらに将来の社会生活にも活かしてほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	芸術学 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	1年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 美術や芸術がどのように始まり、我々人間社会にどのような影響を与えて来たのかを西洋美術史（作品名、作家名、時代・様式、主義・主張など）を紐解きながら学ぶことができる。また、芸術関係者による特別講義を通して美術館運営や学芸員の役割などを学ぶ。	メッセージ 世界文化遺産のピラミッドから始まり、人類が芸術にどう関わり、どう発展してきたか。また世界で名画と呼ばれる作品の謎や完成度などを紐解いて行く。
	到達目標 1. 西洋美術における流れとその特徴を説明することが出来る。 2. ルネサンスにおける人間社会への参画について説明することが出来る。 3. 特別講義などを通して、美術館や学芸員の役割について説明することが出来る。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバス確認（授業内容の確認と事前テスト、美術・芸術に関するテスト）	シラバスの確認（ゼミ内容確認）
	2	エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品（ピラミッドの謎、魅力など）	ピラミッドについて事前学習
	3	エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品（ピラミッドの謎、魅力など）	エジプトの神々について事前学習
	4	エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品（ピラミッドの謎、魅力など）	ギリシャ彫刻について事前学習
	5	エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品（ピラミッドの謎、魅力など）	ギリシャ神話について事前学習
	6	中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス）	ミケランジェロについて事前学習
	7	中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス）	ダヴィンチについて事前学習
	8	中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス）	ラファエロについて事前学習
9	中間試験（確認テスト）	振り返り	
10	特別講義（芸術関係者による講義）	特別講師について事前学習	
11	仏教美術（宗教について）	宗教について事前学習	
12	仏教美術（宗教について）	宗教について事前学習	
13	北欧美術（15世紀－16世紀ルネサンス）	北欧・ボスについて事前学習	
14	北欧美術（15世紀－16世紀ルネサンス）	ブリューゲルについて事前学習	
15	前期のまとめ（振り返り）	振り返り（最終試験に向けて）	
16	最終試験	教養として生活で活かす	
	テキスト・参考文献・資料など レジメ、資料を配布する 1. 美術・芸術学関連参考文献（映像資料も含む） 2. 美術検定		
	学びの手立て 日頃から芸術や美術に関心を持ち、表現の素晴らしさに気づいて欲しい。		
	評価 中間テスト50%、最終試験50%で評価する。 事前テストは評価の含まない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 学芸員に必要な基礎知識（とくに美術）を習得する。美術検定などにもトライして欲しい。
-------	--

※ポリシーとの関連性 共通科目であり、学芸員資格取得必修科目でもある。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	芸術学II	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	1年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	芸術学IIでは、芸術学Iで習得した知識を踏まえ、西洋や日本、沖縄の芸術文化をさらに思弁的に学び、社会における芸術（美術、浮世絵、写真、現代アート）視覚メディアを幅広く学ぶことができる。	ルネサンス以降の西洋美術の発展と社会に与えたインパクトを学び、西洋でも人気が高かった日本美術の傑作浮世絵なども紹介する。

学びの準備	到達目標
	1. 近代史において西洋美術や日本美術の特徴や相互関係を説明することが出来る。 2. 美術史を踏まえ、幅広く芸術メディア（浮世絵、演劇、写真など）の特徴を説明することが出来る。 3. 芸術関係者の特別講義を通して、博物館や美術館の役割を説明することが出来る。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスの確認（授業内容確認など）事前テスト	シラバスの確認（ゼミ内容確認）
	2	西洋美術の動向と潮流（写実主義）	クールペについて事前学習
	3	西洋美術の動向と潮流（写実主義）	ミレーについて事前学習
	4	西洋美術の動向と潮流（写実主義）	カミュについて事前学習
	5	西洋美術の動向と潮流（ロマン主義）	ゴヤについて事前学習
	6	西洋美術の動向と潮流（印象主義）	モネ、ルノワールについて事前学習
	7	西洋美術の動向と潮流（印象主義）	モネについて事前学習
	8	中間テスト	振り返り
	9	特別講義（映画関係者）	特別講師について事前学習
	10	浮世絵（歌麿、写楽）	浮世絵について事前学習
	11	浮世絵（北斎、広重）	浮世絵とフランスとの関係
	12	西洋美術の動向と潮流（印象主義）	セザンヌについて事前学習
	13	西洋美術の動向と潮流（印象主義）	ゴッホについて事前学習
	14	現代芸術（芸術メディア（写真、現代アートなど）の動向と潮流）	ピカソについて事前学習
15	授業のまとめ（振り返り）	振り返り（最終試験に向けて）	
16	最終試験	教養として生活で活かす	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	レジメ、資料を配布する 1. 美術・芸術学関連参考文献（映像資料も含む）、2. 美術検定

学びの実践	学びの手立て
	芸術学I同様、日頃から芸術や美術に関心をもち、表現の素晴らしさに気づいて欲しい。

学びの実践	評価
	中間テスト50%、最終試験50%で評価する。 事前テストは評価の含まない。

学びの継続	次のステージ・関連科目 学芸員に必要な基礎知識（とくに美術）を習得する。美術検定などにもトライして欲しい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

人間や文化のあり方をさまざまな形で（原理的に、歴史的に、現代社会との関わりで、感性を手がかりに）考察する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コミュニケーション論	後期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	1年	研究室番号：5402 尚、仮登録人数超過の場合は抽選を行う。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、前半において、私たちのコミュニケーションを円滑に機能させている「敬語」について具体的な例を挙げながら考察する。後半においては、人間のコミュニケーションのあり方は他の動物とどのように異なるのか、人間が文化を持つに至った言葉とはどのような特徴を持つものか、といった思想的な問題を論じていきたい。</p>	<p>本講義は、前半と後半に分かれる。前半では、人間のコミュニケーションにおける最も高度な技術である「敬語」について日本語の分析を通じて論じる。いくつかには琉球における事例も挙げられるであろう。後半は、高度なコミュニケーションを人間はどのようにして獲得するに至ったかについて考察する。</p>
到達目標	<p>日本語や琉球語の敬語について理解できる（前半）。 人間のコミュニケーションのあり方について理解できる（後半）。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	登録確認・講義概要の把握
	2	敬語とは何か	敬語概略の復習・練習問題
	3	尊敬語	尊敬語の復習・練習問題
	4	謙譲語 I	謙譲語 I の復習・練習問題
	5	謙譲語 II	謙譲語 II の復習・練習問題
	6	丁寧語	丁寧語の復習・練習問題
	7	美化語	美化語の復習・練習問題
8	中間試験	中間試験の復習	
9	コミュニケーションの定義と分類	講義内容の復習	
10	人間のコミュニケーションは他の動物とどのように異なるのか	講義内容の復習	
11	人間のコミュニケーションの発達～他のホモ属、類人猿との比較～	講義内容の復習	
12	「鳴き声」か「音声」か～言語の二重性～	講義内容の復習	
13	言語の構造～音声学と音韻論～	講義内容の復習	
14	ノンヴァーバル・コミュニケーション	講義内容の復習	
15	期末試験	期末試験の復習	
16	予備日	期末試験の復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>適宜プリントを配布する。参考文献は必要に応じて指示する。 敬語の参考図書としては、菊地康人『敬語』（講談社学術文庫）。</p>	
	学びの手立て	<p>仮登録人数超過の場合は抽選を行う。 出席確認を兼ねた小テストを行う。</p>	
	評価	<p>中間試験（40%）・期末試験（40%）・平常点（20%）で評価する。あくまでも、レポート課題は、どうしても避けられない理由で中間試験あるいは期末試験を受けられなかった者に対する措置である。</p>	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	人間文化課題研究 I・II、文化人類学 I・II、生物学 I・II、グローバルコミュニケーション論、比較文化論、認知言語学、多文化共生論など。

※ポリシーとの関連性

人間や文化のあり方をさまざまな形で（原理的に、歴史的に、現代社会との関わりで、感性を手がかりに）考察する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コミュニケーション論	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	1年	研究室番号：5402 尚、仮登録人数超過の場合には抽選を行う。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、前半において、私たちのコミュニケーションを円滑に機能させている「敬語」について具体的な例を挙げながら考察する。後半においては、人間のコミュニケーションのあり方は他の動物とどのように異なるのか、人間が文化を持つに至った言葉とはどのような特徴を持つものか、といった思想的な問題を論じていきたい。</p> <p>到達目標 日本語や琉球語の敬語について理解できる（前半）。 人間のコミュニケーションのあり方について理解できる（後半）。</p>	<p>本講義は、前半と後半に分かれる。前半では、人間のコミュニケーションにおける最も高度な技術である「敬語」について日本語の分析を通じて論じる。いくつかには琉球における事例も挙げられるであろう。後半は、高度なコミュニケーションを人間はどのようにして獲得するに至ったかについて考察する。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	登録確認・講義概要の把握
	2	敬語とは何か	敬語概略の復習・練習問題
	3	尊敬語	尊敬語の復習・練習問題
	4	謙譲語 I	謙譲語 I の復習・練習問題
	5	謙譲語 II	謙譲語 II の復習・練習問題
	6	丁寧語	丁寧語の復習・練習問題
	7	美化語	美化語の復習・練習問題
8	中間試験	中間試験の復習	
9	コミュニケーションの定義と分類	講義内容の復習	
10	人間のコミュニケーションは他の動物とどのように異なるのか	講義内容の復習	
11	人間のコミュニケーションの発達～他のホモ属、類人猿との比較～	講義内容の復習	
12	「鳴き声」か「音声」か～言語の二重性～	講義内容の復習	
13	言語の構造～音声学と音韻論～	講義内容の復習	
14	ノンヴァーバル・コミュニケーション	講義内容の復習	
15	期末試験	期末試験の復習	
16	予備日	期末試験の復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>適宜プリントを配布する。参考文献は必要に応じて指示する。 敬語の参考図書としては、菊地康人『敬語』（講談社学術文庫）。</p>	
	学びの手立て	<p>仮登録人数超過の場合は抽選を行う。 出席確認を兼ねた小テストを行う。</p>	
	評価	<p>中間試験（40%）・期末試験（40%）・平常点（20%）で評価する。あくまでも、レポート課題は、どうしても避けられない理由で中間試験あるいは期末試験を受けられなかった者に対する措置である。</p>	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	人間文化課題研究 I・II、文化人類学 I・II、生物学 I・II、グローバルコミュニケーション論、比較文化論、認知言語学、多文化共生論など。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	1年	研究室：5号館431 mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>人が生きていく中で、自分や他者の心・行動を理解することは大切なことである。そこでは誰もが、いわば心理学者になっているとも言えるが、その理解の仕方は多くの場合、個人的な経験則や直感に基づく主観的なものになりがちである。当講義では、科学的・客観的な人間理解を目指す心理学という学問分野について、基本的な知識と考え方を身につけることをねらいとしている。</p>	<p>初回講義は授業の進め方と留意事項を確認し理解するため非常に重要です。仮登録者であっても、初回講義に欠席した場合は原則的に履修を取り消します。初回講義での説明を受けて、当講義の内容や進め方などを理解した上で、履修登録するかどうかを決めて下さい。</p>
到達目標	<p>①心理学という学問が、どのような性質や特徴を持った学問分野であるかが適正に理解できるようになる。 ②人間の知覚、学習、記憶、脳、認知、感情、動機づけについての基本的な知識を身につけることができる。 ③日常の不思議な心理現象のいくつか（物忘れ、ハマる、やる気を無くす等）を、心理学の理論や概念を用いて説明できる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	履修登録・オリエンテーション：本講義の進め方・諸注意等の説明	シラバスの理解、次回講義の課題
	2	心理学とは？～あなたの心理学知識、それってホントでっか？～：心理学のイメージと誤解	今回の復習と次回講義に向けた課題
	3	人は世界をどのようにとらえるのか？～知覚の心理学(1)～：五感・視覚のしくみ	今回の復習と次回講義に向けた課題
	4	人は世界をどのようにとらえるのか？～知覚の心理学(2)～：錯視・日常生活の中の知覚	今回の復習と次回講義に向けた課題
	5	人はどのようにして学ぶのか？～学習の心理学(1)～：なぜ、それにハマるのか？	今回の復習と次回講義に向けた課題
	6	人はどのようにして学ぶのか？～学習の心理学(2)～：いろいろな学びのかたち	今回の復習と次回講義に向けた課題
	7	人の記憶とはどのようなものか？～記憶の心理学(1)～：その記憶術、科学的に有効？	今回の復習と次回講義に向けた課題
	8	人の記憶とはどのようなものか？～記憶の心理学(2)～：記憶はレコーダーと同じなの？	今回の復習と次回講義に向けた課題
	9	わかるとは何か？～認知の心理学(1)～：思考・理解、勉強や練習の成果が上らない？	今回の復習と次回講義に向けた課題
	10	わかるとは何か？～認知の心理学(2)～：自閉症、論理的思考、予知夢現象の心理学	今回の復習と次回講義に向けた課題
	11	何が人を動かすのか？～気分と感情の心理学～：認知と感情の関係、表情(情動)の認知	今回の復習と次回講義に向けた課題
	12	何が人を動かすのか？～モチベーションの心理学～：“褒める・叱る”と“やる気”	今回の復習と次回講義に向けた課題
	13	脳と心はどのような関係にあるのか？～脳と心(1)～：神経ネットワーク、眠りと感情	今回の復習と次回講義に向けた課題
14	脳と心はどのような関係にあるのか？～脳と心(2)～：脳を知る、脳損傷や薬物、認知症	今回の復習と次回講義に向けた課題	
15	全講義内容の振り返り・まとめ & 学期末課題の案内	今回の復習と次回講義に向けた課題	
16	学期末試験(予定)	学期末課題の準備と全体の総復習	
テキスト・参考文献・資料など	<p>・教科書は特に指定せず、毎回の配付資料を中心に講義を進めていきます。 ・講義の中で、または配付資料を通して適宜、関連文献や資料を紹介し、紹介された文献や資料等を、各自の自学自習に役立ててください。</p>		
学びの手立て	<p>・他の受講生に迷惑を及ぼす行為（遅刻や途中入退室、私語等）は厳に慎んで下さい。 ・何となく授業に出席しているというだけでは、単位の修得が困難です。自分の体験等と結びつけることを意識しながら学ぶと共に、毎回課される予・復習課題に取り組むことで能動的に心理学を学んで下さい。 ・学びを深めるために、疑問に思ったこと等は時間外学習で自発的に調べたり、考えたりしてください。</p>		
評価	<p>・成績評価は、授業への参加態度45%、学期末課題55%の内訳で、これらを総合的に評価して行います。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。 ・授業への参加態度は主に、毎回提出のリアクションペーパーの質と量、予・復習課題等により評価します。 ・学期末課題については、試験を実施する場合、「参考書や資料等の持ち込みを一切不可」として論述式の試験を行います。レポート課題を課す場合は、授業内で詳細を指示します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学Ⅱを履修すると、Ⅰで学んだ知識とⅡの関わりが見えるようになり、人間や人間の心理・行動についての理解がより深められるでしょう。その他、心理カウンセリング専攻が提供する専門科目を履修すると、心理学の全体像がより見えてきたり、最新の研究動向を知ることができると思います。次のステージ：心理学Ⅰで学んだことを日常の出来事と結びつけ考える習慣を持ち続け、心理学を自分の将来に役立ててほしい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学 I	後期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	1年	研究室：5号館431 mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>人が生きていく中で、自分や他者の心・行動を理解することは大切なことである。そこでは誰もが、いわば心理学者になっているとも言えるが、その理解の仕方は多くの場合、個人的な経験則や直感に基づく主観的なものになりがちである。当講義では、科学的・客観的な人間理解を目指す心理学という学問分野について、基本的な知識と考え方を身につけることをねらいとしている。</p>	<p>初回講義は授業の進め方と留意事項を確認し理解するため非常に重要です。仮登録者であっても、初回講義に欠席した場合は原則的に履修を取り消します。初回講義での説明を受けて、当講義の内容や進め方などを理解した上で、履修登録するかどうかを決めて下さい。</p>
到達目標	<p>①心理学という学問が、どのような性質や特徴を持った学問分野であるかが適正に理解できるようになる。 ②人間の知覚、学習、記憶、脳、認知、感情、動機づけについての基本的な知識を身につけることができる。 ③日常の不思議な心理現象のいくつか（物忘れ、ハマる、やる気を無くす等）を、心理学の理論や概念を用いて説明できる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	履修登録・オリエンテーション：本講義の進め方・諸注意等の説明	シラバスの理解、次回講義の課題
	2	心理学とは？～あなたの心理学知識、それってホントでっか？～：心理学のイメージと誤解	今回の復習と次回講義に向けた課題
	3	人は世界をどのようにとらえるのか？～知覚の心理学(1)～：五感・視覚のしくみ	今回の復習と次回講義に向けた課題
	4	人は世界をどのようにとらえるのか？～知覚の心理学(2)～：錯視・日常生活の中の知覚	今回の復習と次回講義に向けた課題
	5	人はどのようにして学ぶのか？～学習の心理学(1)～：なぜ、それにハマるのか？	今回の復習と次回講義に向けた課題
	6	人はどのようにして学ぶのか？～学習の心理学(2)～：いろいろな学びのかたち	今回の復習と次回講義に向けた課題
	7	人の記憶とはどのようなものか？～記憶の心理学(1)～：その記憶術、科学的に有効？	今回の復習と次回講義に向けた課題
	8	人の記憶とはどのようなものか？～記憶の心理学(2)～：記憶はレコーダーと同じなの？	今回の復習と次回講義に向けた課題
	9	わかるとは何か？～認知の心理学(1)～：思考・理解、勉強や練習の成果が上がらない	今回の復習と次回講義に向けた課題
	10	わかるとは何か？～認知の心理学(2)～：自閉症、論理的思考、予知夢現象の心理学	今回の復習と次回講義に向けた課題
	11	何が人を動かすのか？～気分と感情の心理学～：認知と感情の関係、表情(情動)の認知	今回の復習と次回講義に向けた課題
	12	何が人を動かすのか？～モチベーションの心理学～：“褒める・叱る”と“やる気”	今回の復習と次回講義に向けた課題
	13	脳と心はどのような関係にあるのか？～脳と心(1)～：神経ネットワーク、眠りと感情	今回の復習と次回講義に向けた課題
	14	脳と心はどのような関係にあるのか？～脳と心(2)～：脳を知る、脳損傷や薬物、認知症	今回の復習と次回講義に向けた課題
15	全講義内容の振り返り・まとめ & 学期末課題の案内	今回の復習と次回講義に向けた課題	
16	学期末試験(予定)	学期末課題の準備と全体の総復習	

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書は特に指定せず、毎回の配付資料を中心に講義を進めていきます。 講義の中で、または配付資料を通して適宜、関連文献や資料を紹介します。紹介された文献や資料等を、各自の自学自習に役立ててください。
-------	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 他の受講生に迷惑を及ぼす行為（遅刻や途中入退室、私語等）は厳に慎んで下さい。 何となく授業に出席しているというだけでは、単位の修得が困難です。自分の体験等と結びつけることを意識しながら学ぶと共に、毎回課される予・復習課題に取り組むことで能動的に心理学を学んで下さい。 学びを深めるために、疑問に思ったこと等は時間外学習で自発的に調べたり、考えたりしてください。
--------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価は、授業への参加態度45%、学期末課題55%の内訳で、これらを総合的に評価して行います。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。 授業への参加態度は主に、毎回提出のリアクションペーパーの質と量、予・復習課題等により評価します。 学期末課題については、試験を実施する場合、「参考書や資料等の持ち込みを一切不可」として論述式の試験を行います。レポート課題を課す場合は、授業内で詳細を指示します。
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学Ⅱを履修すると、Ⅰで学んだ知識とⅡの関わりが見えるようになり、人間や人間の心理・行動についての理解がより深められるでしょう。その他、心理カウンセリング専攻が提供する専門科目を履修すると、心理学の全体像がより見えてきたり、最新の研究動向を知ることができると思います。次のステージ：心理学Ⅰで学んだことを日常の出来事と結びつけ考える習慣を持ち続け、心理学を自分の将来に役立ててほしい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学Ⅱ	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊 真児	1年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>人の心や行動について科学的・客観的な視座から学ぶことを通じて、自己・他者・社会について多面的な理解ができるようになることを目指します。本講義では、なるべく日常生活と関わりの深い心理的事象（パーソナリティ、心の成長と発達、人間関係、心のトラブルなど）を取り上げ、それらの事象が、どのような理論や方法によって心理学的に研究され、説明されているのかを概説します。</p>	<p>初回講義は授業契約を行うため非常に重要です。仮登録者であっても、初回講義に欠席した場合は原則的に履修を取り消します。初回講義での説明を受けて、当講義の内容や進め方などを理解した上で履修登録するかどうかを決めて下さい。また、重要な連絡事項の伝達をすることがあるので、沖国ポータル（メールや掲示）を必ず確認してください。</p>
到達目標	<p>①心理学という学問が、どのような性質や特徴を持った学問分野であるかが適正に理解できるようになる。 ②人間の性格、心や体の発達、他者や集団の影響、心の病・障がいとカウンセリング・心理療法に関する基礎的な知識を身につけることができる。 ③日常生活の中で話題になることが多い心理現象のいくつか（血液型と性格の関係、第一印象、悪徳商法、心の病など）を、科学的な心理学の知見をもとに理解し、人に説明することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	履修登録・授業契約・オリエンテーション：本講義の進め方・諸注意等の説明	シラバスの理解、次回講義の課題
	2	心理学のイメージと実際～ポップな心理学とアカデミックな心理学の相違～心理テスト体験	課題：主要な性格理論の調べ学習
	3	人の性格とは何か？～パーソナリティ心理学(1)～：血液型と性格・類型論、Profiling	課題：心理テストの回答・事例検討
	4	人の性格とは何か？～パーソナリティ心理学(2)～：特性論、性格テスト、人格障がい等	課題：自身の幼少時の発達を聴取
	5	人が成長・発達するとは、どういうことか？～乳幼児期の発達心理学～：人格形成、虐待等	課題：アンケートへの回答・持参
	6	人が成長・発達するとは、どういうことか？～児童期・思春期・青年期の発達心理学～	課題：人生コース図の作成・評価
	7	人が成長・発達するとは、どういうことか？～成人期・老年期の発達心理学～：育児・老い	課題：2つの心理テストへの回答
	8	自分とは何か？～社会心理学(1)～：自分を知ること、自分を他者に知らせる(見せる)こと	課題：Webアンケートへの回答
	9	人はどのようにして他者を理解し、他者と関わるのか？～社会心理学(2)～：第一印象など	課題：Webアンケートへの回答
	10	人は、他者・社会からどのような影響を受けるのか？～社会心理学(3)～：社会的影響・説得	課題：「カウンセラー」の調べ学習
	11	心の不調・トラブル～臨床心理学、カウンセラーの資格と仕事とは？～：トラウマ・PTSD	課題：PTSDの事例調べ・用語調べ
	12	心の不調・トラブル～心の病・障害とはどのようなものか？～：パニック障害、躁・うつ病	課題：別紙配布資料への回答・持参
	13	心の不調・トラブル～心理療法・カウンセリングとは何か？～：統合失調症、認知行動療法	課題：うつ病と自殺の現状調べ学習
	14	心理学と日常生活・現代社会との関わり～心理学の実践と応用～：非行・犯罪研究を題材に	課題：精神疾患の医療支援制度調べ
	15	全講義内容のまとめ & 学期末課題の案内	全講義内容の振り返りとまとめ
16	学期末試験(予定)	半期間の学びの総復習	

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書は特に指定せず、毎回の配付資料を中心に講義を進めていきます。 ・講義の中で口頭での紹介や配付資料を通して毎回、関連文献を紹介していきます。映画やマンガなども紹介しますので、学習内容の理解をさらに深める手段として、自学自習に活用してみてください。
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の受講生に迷惑を及ぼす行為（遅刻や途中入退室、私語等）は厳に慎んで下さい。 ・何となく授業に出席しているというだけでは、単位の修得が困難です。自分の体験等と結びつけることを意識しながら学ぶと共に、毎回課される予習課題に取り組むことで能動的に心理学を学んで下さい。 ・ホームワーク（例：アンケート等への回答）は、平常点として授業への参加態度の評価にカウントしますので、しっかりと取り組んでください。 ・学びを深めるために、疑問に思ったこと等は時間外学習で自発的に調べたり、考えたりしてください。
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は概ね、授業への参加態度50%、学期末課題50%の内訳で、これらを総合的に評価して行います。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。 ・授業への参加態度は主に、毎回提出のリアクションペーパーの質と量、授業時間外課題等により評価します。 ・学期末課題については、試験を実施する場合、「参考書や資料等の持ち込みを一切不可」として論述式の試験を行います。レポート課題を課す場合は、授業内で詳細を指示します。
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学Ⅰを履修すると、Ⅱで学んだ心理現象の背景にどのような心理学的・脳科学的メカニズムがあるのかが見えるようになり、人間や人間の心理・行動についての理解がより深められるでしょう。その他、心理カウンセリング専攻が提供する専門科目を履修すると、心理学の全体像がより見えてきたり、最新の研究動向を知ることができると思います。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学Ⅱ	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊 真児	1年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>人の心や行動について科学的・客観的な視座から学ぶことを通じて、自己・他者・社会について多面的な理解ができるようになることを目指します。本講義では、なるべく日常生活と関わりの深い心理的事象（パーソナリティ、心の成長と発達、人間関係、心のトラブルなど）を取り上げ、それらの事象が、どのような理論や方法によって心理学的に研究され、説明されているのかを概説します。</p>	<p>初回講義は授業契約を行うため非常に重要です。仮登録者であっても、初回講義に欠席した場合は原則的に履修を取り消します。初回講義での説明を受けて、当講義の内容や進め方などを理解した上で履修登録するかどうかを決めて下さい。また、重要な連絡事項の伝達をすることがあるので、沖国ポータル（メールや掲示）を必ず確認してください。</p>
到達目標	<p>①心理学という学問が、どのような性質や特徴を持った学問分野であるかが適正に理解できるようになる。 ②人間の性格、心や体の発達、他者や集団の影響、心の病・障がいとカウンセリング・心理療法に関する基礎的な知識を身につけることができる。 ③日常生活の中で話題になることが多い心理現象のいくつか（血液型と性格の関係、第一印象、悪徳商法、心の病など）を、科学的な心理学の知見をもとに理解し、人に説明することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	履修登録・授業契約・オリエンテーション：本講義の進め方・諸注意等の説明	シラバスの理解、次回講義の課題
	2	心理学のイメージと実際～ポップな心理学とアカデミックな心理学の相違～心理テスト体験	課題：主要な性格理論の調べ学習
	3	人の性格とは何か？～パーソナリティ心理学(1)～：血液型と性格・類型論、Profiling	課題：心理テストの回答・事例検討
	4	人の性格とは何か？～パーソナリティ心理学(2)～：特性論、性格テスト、人格障がい等	課題：自身の幼少時の発達を聴取
	5	人が成長・発達するとは、どういうことか？～乳幼児期の発達心理学～：人格形成、虐待等	課題：アンケートへの回答・持参
	6	人が成長・発達するとは、どういうことか？～児童期・思春期・青年期の発達心理学～	課題：人生コース図の作成・評価
	7	人が成長・発達するとは、どういうことか？～成人期・老年期の発達心理学～：育児・老い	課題：2つの心理テストへの回答
	8	自分とは何か？～社会心理学(1)～：自分を知ること、自分を他者に知らせる(見せる)こと	課題：Webアンケートへの回答
	9	人はどのようにして他者を理解し、他者と関わるのか？～社会心理学(2)～：第一印象など	課題：Webアンケートへの回答
	10	人は、他者・社会からどのような影響を受けるのか？～社会心理学(3)～：社会的影響・説得	課題：「カウンセラー」の調べ学習
	11	心の不調・トラブル～臨床心理学、カウンセラーの資格と仕事とは？～：トラウマ・PTSD	課題：PTSDの事例調べ・用語調べ
	12	心の不調・トラブル～心の病・障害とはどのようなものか？～：パニック障害、躁・うつ病	課題：別紙配布資料への回答・持参
	13	心の不調・トラブル～心理療法・カウンセリングとは何か？～：統合失調症、認知行動療法	課題：うつ病と自殺の現状調べ学習
	14	心理学と日常生活・現代社会との関わり～心理学の実践と応用～：非行・犯罪研究を題材に	課題：精神疾患の医療支援制度調べ
	15	全講義内容のまとめ & 学期末課題の案内	全講義内容の振り返りとまとめ
16	学期末試験(予定)	半期間の学びの総復習	

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書は特に指定せず、毎回の配付資料を中心に講義を進めていきます。 ・講義の中で口頭での紹介や配付資料を通して毎回、関連文献を紹介していきます。映画やマンガなども紹介しますので、学習内容の理解をさらに深める手段として、自学自習に活用してみてください。
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の受講生に迷惑を及ぼす行為（遅刻や途中入退室、私語等）は厳に慎んで下さい。 ・何となく授業に出席しているというだけでは、単位の修得が困難です。自分の体験等と結びつけることを意識しながら学ぶと共に、毎回課される予習課題に取り組むことで能動的に心理学を学んで下さい。 ・ホームワーク（例：アンケート等への回答）は、平常点として授業への参加態度の評価にカウントしますので、しっかりと取り組んでください。 ・学びを深めるために、疑問に思ったこと等は時間外学習で自発的に調べたり、考えたりしてください。
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は概ね、授業への参加態度50%、学期末課題50%の内訳で、これらを総合的に評価して行います。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。 ・授業への参加態度は主に、毎回提出のリアクションペーパーの質と量、授業時間外課題等により評価します。 ・学期末課題については、試験を実施する場合、「参考書や資料等の持ち込みを一切不可」として論述式の試験を行います。レポート課題を課す場合は、授業内で詳細を指示します。
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学Ⅰを履修すると、Ⅱで学んだ心理現象の背景にどのような心理学的・脳科学的メカニズムがあるのかが見えるようになり、人間や人間の心理・行動についての理解がより深められるでしょう。その他、心理カウンセリング専攻が提供する専門科目を履修すると、心理学の全体像がより見えてきたり、最新の研究動向を知ることができると思います。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 女性と文化	期別 後期	曜日・時限 火3	単位 2
	担当者 -栗国 恭子	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ	
			授業内容の質問などは授業終了後に教室で受け付けます。その他学内E-mail	

学びの準備	ねらい 社会的・文化的性別（社会が規定する〈男・女〉の役割）であるジェンダー概念の理解と、女性（ジェンダー）と文化研究の展開を確認していく。ジェンダーに関わる文化要素の事例確認することで、社会における〈男〉と〈女〉のあり様は、生物学的な差異に基づきながら社会や時代によって異なり、かつ多様であることを学ぶ。沖縄社会のジェンダーのテーマに触れる。	メッセージ この講義をきっかけに、男らしさや女らしさや性の役割は時代や文化によって異なることを理解する視点（ヒント）を得て、自分自身が捕えている持つ〈男〉とは？〈女〉とは？を再考してください。
	到達目標 社会的・文化的性別（社会が規定する〈男・女〉の役割）であるジェンダー概念の理解と、女性（ジェンダー）と文化研究（沖縄を含む）の展開を確認していく（1-3週目）。〈産む性〉についても社会システムである「婚姻」や〈母性〉概念〈子供〉概念、〈女〉であることで社会・文化に管理される身体論の事例などを確認しながら女ながら多様さを確認する。ジェンダー研究の基本を確認にした後に沖縄社会・文化の〈女〉のあり様（特徴）を知り、多角的な理解が必要であることを確認する（11~15週）。	

学びの準備	社会的・文化的性別（社会が規定する〈男・女〉の役割）であるジェンダー概念の理解と、女性（ジェンダー）と文化研究（沖縄を含む）の展開を確認していく（1-3週目）。〈産む性〉についても社会システムである「婚姻」や〈母性〉概念〈子供〉概念、〈女〉であることで社会・文化に管理される身体論の事例などを確認しながら女ながら多様さを確認する。ジェンダー研究の基本を確認にした後に沖縄社会・文化の〈女〉のあり様（特徴）を知り、多角的な理解が必要であることを確認する（11~15週）。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ジェンダーとは何か 文化的性差の概念を理解する	〈性差〉について調べる
	2	女性研究の流れ① 女性と文化・ジェンダー研究史の議論の流れを確認する	ジェンダー研究文献①②を確認
	3	女性研究の流れ② 沖縄の女性と文化研究のあり様を確認する	沖縄の女性研究文献③を確認する
	4	婚姻と文化① 世界の民族社会における婚姻制度の多様性を確認する	世界の婚姻制度について調べる
	5	婚姻と文化② 変化した現状の性・婚姻・出産のあり様と課題を確認する	性・生殖革命について調べる
	6	生む性 〈母性〉・〈子供〉の発見、多様な概念	ルソーの著作や参考文献⑤⑥
	7	文化に管理される身体① 〈ケガレ〉・〈聖〉観と身体観	〈不浄〉〈ケガレ〉の意味を調べる
	8	文化に管理される身体② 〈ケガレ〉・〈聖〉観と身体観	ネパールの信仰について調べる
	9	文化に管理される身体③ 〈ケガレ〉無き女性・沖縄の民俗信仰と女性たち	沖縄の民俗信仰の特徴を調べる
	10	文化に管理される身体④ インドのダウリーやアフリカのFGM、身体加工	身体と人権の問題を考える
	11	沖縄の女性と文化① 現代の婚姻と伝統文化（離婚・家督相続・ユタ）問題	『沖縄県史 女性史編』を読む
	12	沖縄の女性と文化② 王府時代の多様な婚姻のあり様	『沖縄県史 女性史編』を読む
	13	沖縄の女性と近代 異なる文化接触と評価 風俗改良（風土・身体・戦争）	『沖縄県史 女性史編』を読む
	14	沖縄の女性表象 民藝一行が撮り、撮らなかった1940年代の〈沖縄の女性〉	戦前の沖縄のポスター雑誌を確認
	15	沖縄の女性技術文化 戦後沖縄の女性の技術文化ーミシンをめぐる技術史ー	女性と技術と文化を確認する
16	テスト	「課題（テスト）の準備」	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特定教科書はなし。講義用のレジュメ・資料は各自配布する。講義（講師）はパソコンを使用し、テーマによってはビデオ映像などを使用する。 〈参考文献〉①アードナーほか『男が文化で女は自然か？一性差の文化人類学』（晶文社、1987年）②マーガレット・ミード『男性と女性』（東京創元社、1981年）③伊波普猷・真境名安興『沖縄女性史』④田中雅一ほか編『ジェンダーで学ぶ文化人類学』（世界思想社、2005年）⑤バタンテール『母性という神話』（ちくま文庫）⑥フリップ・アリエス『子供の誕生』（みすず書房）⑦『沖縄県史女性史編』（2016）ほか講義でも重要な参考文献など紹介
-------	--

学びの実践	学びの手立て 「履修の心得え」として、以下を注意してください。 ・出欠確認を毎回行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず「欠席届」などの書類は提出すること。 ・授業での疑問・質問を積極的にしてもらいたい。
-------	--

学びの実践	評価 「評価方法・割合」期末試験80%、講義感想レポート10%・平常点10% 「評価基準」期末試験においては、ジェンダー関係の情報理解だけではなく、文化を通して捉える女性のテーマを、どのような認識を持ち、また問題意識を持つようになったのか、自身のジェンダー観が深まったのかの思考のまとまりを論ずる過程を評価する。よって授業内容要約・暗記のみを求める試験ではない。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ?関連科目 多様な人間の社会や文化を扱う「文化人類学」や女性の生活文化と関りが深い「民俗学」や沖縄文化関係などの科目をとることで、文化を通した女性への理解が深まる。 (2) 次のステージ ジェンダーについて人文・社会科学科目だけではなく文学や芸術・美術などの領域の実践・展開など幅広く学んでほしい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	女性と文化	前期	火3	2
	担当者 -栗国 恭子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	授業内容の質問などは授業終了後に教室で受け付けます。その他学内E-mail	

学びの準備	ねらい 社会的・文化的性別（社会が規定する〈男・女〉の役割）であるジェンダー概念の理解と、女性（ジェンダー）と文化研究の展開を確認していく。ジェンダーに関わる文化要素の事例確認することで、社会における〈男〉と〈女〉のあり様は、生物学的な差異に基づきながら社会や時代によって異なり、かつ多様であることを学ぶ。沖縄社会のジェンダーのテーマに触れる。	メッセージ この講義をきっかけに、男らしさや女らしさや性の役割は時代や文化によって異なることを理解する視点（ヒント）を得て、自分自身が捕えている持つ〈男〉とは？〈女〉とは？を再考してください。
	到達目標 社会的・文化的性別（社会が規定する〈男・女〉の役割）であるジェンダー概念の理解と、女性（ジェンダー）と文化研究（沖縄を含む）の展開を確認していく（1-3週目）。〈産む性〉についても社会システムである「婚姻」や〈母性〉概念〈子供〉概念、〈女〉であることで社会・文化に管理される身体論の事例などを確認しながら女ながら多様さを確認する。ジェンダー研究の基本を確認にした後に沖縄社会・文化の〈女〉のあり様（特徴）を知り、多角的な理解が必要であることを確認する（11~15週）。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ジェンダーとは何か 文化的性差の概念を理解する
	2	女性研究の流れ① 女性と文化・ジェンダー研究史の議論の流れを確認する
	3	女性研究の流れ② 沖縄の女性と文化研究のあり様を確認する
	4	婚姻と文化① 世界の民族社会における婚姻制度の多様性を確認する
	5	婚姻と文化② 変化した現状の性・婚姻・出産のあり様と課題を確認する
	6	生む性 〈母性〉・〈子供〉の発見、多様な概念
	7	文化に管理される身体① 〈ケガレ〉・〈聖〉観と身体観
	8	文化に管理される身体② 両義性の身体 ネパールのクマリ信仰を事例に
	9	文化に管理される身体③ 〈ケガレ〉無き女性・沖縄の民俗信仰と女性たち
	10	文化に管理される身体④ インドのダウリーやアフリカのFGM、身体加工
	11	沖縄の女性と文化① 現代の婚姻と伝統文化（離婚・家督相続・ユタ）問題
	12	沖縄の女性と文化② 王府時代の多様な婚姻のあり様
	13	沖縄の女性と近代 異なる文化接触と評価 風俗改良（風土・身体・戦争）
	14	沖縄の女性表象① 民藝一行が撮り、撮らなかった1940年代の〈沖縄の女性〉
	15	沖縄の女性表象② 戦後の女性と技術—ミシンをめぐる沖縄技術史—
16	テスト	
		時間外学習の内容
		〈性差〉について調べる
		ジェンダー研究文献①②を確認
		沖縄の女性研究文献③を確認する
		世界の婚姻制度について調べる
		性・生殖革命について調べる
		ルソーの著作や参考文献⑤⑥
		〈不浄〉〈ケガレ〉の意味を調べる
		ネパールの信仰について調べる
		沖縄の民俗信仰の特徴を調べる
		身体と人権の問題を考える
		『沖縄県史 女性史編』を読む
		『沖縄県史 女性史編』を読む
		『沖縄県史 女性史編』を読む
		柳宗悦、坂本万七の仕事を確認
		女性の技術を確認
		「課題（テスト）の準備」

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特定教科書はなし。講義用のレジュメ・資料は各自配布する。講義（講師）はパソコンを使用し、テーマによってはビデオ映像などを使用する。 ①アードナーほか『男が文化で女は自然か？—性差の文化人類学』（晶文社、1987年）②マーガレット・ミード『男性と女性』（東京創元社、1981年）③伊波普猷・真境名安興『沖縄女性史』④田中雅一ほか編『ジェンダーで学ぶ文化人類学』（世界思想社、2005年）⑤バタンテール『母性という神話』（ちくま文庫）⑥フリップ・アリエス『子供の誕生』（みすず書房）⑦『沖縄県史女性史編』（2016）ほか講義でも重要な参考文献（など）紹介
-------	--

学びの実践	学びの手立て 「履修の心得え」として、以下を注意してください。 ・出欠確認を毎回行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず「欠席届」などの書類は提出すること。 ・授業での疑問・質問を積極的にしてもらいたい。
-------	--

学びの実践	評価 「評価方法・割合」期末試験80%、講義感想レポート10%・平常点10% 「評価基準」期末試験においては、ジェンダー関係の情報理解だけではなく、文化を通して捉える女性のテーマを、どのような認識を持ち、また問題意識を持つようになったのか、自身のジェンダー観が深まったのかの思考のまとまりを論ずる過程を評価する。よって授業内容要約・暗記のみを求める試験ではない。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ?関連科目 多様な人間の社会や文化を扱う「文化人類学」や女性の生活文化と関りが深い「民俗学」や沖縄文化関係などの科目をとることで、文化を通した女性への理解が深まる。 (2) 次のステージ ジェンダーについて人文・社会科学科目だけではなく文学や芸術・美術などの領域の実践・展開など幅広く学んでほしい。
-------	---

科目基本情報	科目名 女性と歴史	期別	曜日・時限	単位
	担当者 -宮城 晴美	前期	土 4	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	授業終了後か、自宅メール (h-unai@nifty.com) に連絡ください。	

学びの準備	ねらい 近年の日本では、女性の社会進出もめざましいものがありますが、男性優位の社会であることに変わりはありません。こうした社会がいつ、どういう理由ででき、沖縄の女性たちにどのような影響を与えたか、そして時代によって女性たちの”主体性”がどう変化し変化させられたかについて、フェミニズム理論を中心にジェンダー史を通して検証していきます。	メッセージ 本講義では、特定のテキストは使わず、毎回、パワーポイントの画像、映像を使ったビジュアルな講義を進めていきます。世界の女性に負けない、私たちの母・祖母時代の、沖縄の女性たちのパワフルな活動について紹介していきます。
	到達目標 1.現在の女性をとりまく社会のしくみを歴史的に検証することによって男女格差の本質を見極め、ジェンダーの視点から問題解決策を見つけることができるようにする。 2.これまで「当たり前」と思ってきた「男女格差」の中にひそむ矛盾や思い込みに気づき、利害を共有している社会への批判的知性を養うことができるようにする 3.就職したとき、あるいは家庭生活を営むなかで性別による問題に直面したとき、その解決にむけた「アイテム」を講義の中から見つけ、行動することができるようにする。 4.ジェンダー平等を学ぶことで、沖縄社会の文化的ひずみ（たとえばトートナー問題を正し、差別のない社会づくりに貢献できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション（本授業のねらいと全体像の説明）	シラバスを事前に読んでくること
	2	ジェンダーと何かー日常生活の中のジェンダー	〃
	3	琉球王国時代の女性の地位	参考文献①第6章
	4	公娼制度下の辻遊郭	参考文献②第VIII章
	5	近代日本の国家建設	参考文献④II部
	6	家父長制の確立と「良妻賢母」教育ー風俗改良運動を背景に	プリントを事前に読んでくること
	7	第一波フェミニズム思想ー世界的潮流の中で	〃
	8	「内なる日本化」と抗する女たち	〃
	9	軍事主義とジェンダーー「銃後の女」への総動員	〃
	10	沖縄の日本軍「慰安婦」制度	身近の戦争体験を聞く
	11	【映像】ドキュメント沖縄戦	プリントを事前に読んでくること
	12	占領政策の下で	参考文献③第三章
	13	第二波フェミニズム思想と女性の政治参加	プリントを事前に読んでくること
	14	沖縄のフェミニズム運動と軍隊の構造的暴力	〃
	15	「トートナー（位牌）」継承問題とジェンダー	〃
16	期末テスト	プリントを元に半期間の総復習	

テキスト・参考文献・資料など
 テキストはパワーポイントで作成し、そのプリントを毎回配付します。
 【参考文献】①那覇市総務部女性室『なは・女のあしあと 那覇女性史（前近代編）』琉球新報社、2001 ②那覇市総務部女性室・那覇女性史編集委員会編『なは・女のあしあと 那覇女性史（近代編）』ドメス出版、1998 ③那覇市総務部女性室編『なは・女のあしあと 那覇女性史（戦後編）』琉球新報社、2001 ④沖縄県教育委員会文化財課史料編集班編『沖縄県史 各論編 第8巻 女性史』沖縄県教育委員会、2016 ⑤その他、随時紹介します。

学びの手立て
 ①「履修の心構え」
 ・出席を重視します。やむを得ず遅刻した場合は講義終了後に申し出、欠席した場合は、必ず届けを出してください。 ・欠席した日のプリントは、必ず要求して受け取ってください。 ・やむを得ず途中退席するときは授業前に届け出、リアクションペーパーを自身で提出してください。
 ②「学びを深めるために」
 ・プリントは前の週に配付します。事前に読んでくること。講義には忘れずに持参し、授業の内容をメモして復習に役立ててください。 ・「時間外学習の内容」を参考に、提示した文献で予習するよう心がけてください。

評価
 ・評価は、テスト50%、レポート35%、リアクションペーパー15（授業参加度）%で配分します。 ・テストは授業で使用したプリントを持ち込みますが、内容を理解しなければ解けないようになっていきますのでしっかり学習してください。 ・レポートの課題は後日指定しますが、「到達目標」を評価基準にしますので、自身の言葉で書いてください。 ・リアクションペーパーは、授業に対する感想、意見、質問等を書いていただきますが、的外れの感想、質問は減点の対象になります。

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 【次のステージ】
 法的には、ほぼ「男女平等」の社会になりましたが、女性を取り巻く環境はまだまだ厳しいものがあります。日常生活のなかで、それに気づき、その根源は何なのか、講義を思い出しながら解決方法を考えてみてください。また、母・祖母の経験を通して、沖縄女性の足跡を学ぶことも良いですね。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	世界の歴史Ⅰ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	1年	研究室 (5434)、またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は近代ヨーロッパの政治外交史の講義である。しかし、近代のヨーロッパは他地域との関係を通じて発展したので、非ヨーロッパ地域との関係をふまえながら説明する。その際、香辛料、毛織物等の「モノの移動」が与えた影響を基軸として、講義を展開する。また、歴史学は暗記物ではなく「考える学問」なのでワークシートの作成を通じた「歴史的なものの考え方」の修得も目標とする。	高校までの暗記による歴史学習とは異なる、当事者として歴史を考える学びを身につけてもらえるような講義とします。例年、登録だけして講義に出席しない人が多くいますので、そうしたことは避けてください。
到達目標	(1) 近代ヨーロッパ政治外交史に関する基本的な知識を習得し、特定の歴史事象について論理的に説明できる。 (2) 過去の出来事を、当事者の立場に立って考え、自分の言葉で表現できる。 (3) 歴史に関する資料・史料を分析・読解し、その結果を表現できる。 (4) 時間外学習に主体的に取り組み、「考える歴史学」を学ぼうとする姿勢を有することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：講義に関するルールは何か？	ワークシート提出
	2	「大航海時代」の背景①：中世の西ヨーロッパ世界の特徴は何か？	配付資料の精読、ワークシート提出
	3	「大航海時代」の背景②：十字軍は西ヨーロッパ世界にどんな影響を与えたか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	4	「大航海時代」の背景③：「商業の復活」によって、西ヨーロッパ世界はどのように変化したか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	5	「大航海時代」の到来①：イベリア諸国はなぜ、どのように「インド」を目指したか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	6	「大航海時代」の到来②：「大航海時代」の到来は、世界にどんな変化をもたらしたか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	7	スペインとオランダ①：16世紀のスペインとオランダは、どのような関係だったのか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	8	スペインとオランダ②：オランダ独立戦争は、どんな戦争だったか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	9	スペインとオランダ③：オランダ独立戦争は、どのように終わったか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	10	オランダの繁栄①：独立戦争を通じて、オランダはどんな国家となったか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	11	オランダの繁栄②：オランダの繁栄は、どんな対立を生み出したか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	12	イングランドの革命①：17世紀半ばのイングランドは、どんな国家だったのか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	13	イングランドの革命②：名誉革命で、英蘭関係はどのように変化したのか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	14	茶をめぐるヨーロッパの変化①：茶文化は、ヨーロッパでどのように広がったのか？	配付資料の精読、ワークシート提出
15	茶をめぐるヨーロッパの変化②：茶文化の流入で、イングランドはどのように変化したか？	配付資料の精読	
16	学期末試験	学期末試験の準備	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは使用しない。 主な参考資料は下記の通り。 ①佐藤彰一・池上俊一『西ヨーロッパ世界の形成』（中央公論社、1997年）②榎山紘一『ルネサンスと地中海』（中央公論社、1996年）③森田安一『スイス・ベネルクス史』（山川出版社、1998年）④立石博高『スペイン・ポルトガル史』（山川出版社、2000年）⑤長谷川輝夫他『ヨーロッパ近世の開花』（中央公論社、1997年）など

学びの手立て	① 履修の心構え 単に出席しただけでは、単位の修得につながりません。また、出席自体は評価の対象ではありません。予習（配付資料の精読）、復習（ワークシートの提出）にしっかり取り組んでください。 ② 学びを深めるために 講義内容を振り返ることのできる、自分独自の「ノート作成術」を確立してください。ノートは、講義中に作成する「メモ」、講義資料、板書内容等に基づいて、講義の後に復習を兼ねて作成するものです。
--------	--

評価	到達目標（1）の評価：論述式学期末試験（60%） 到達目標（2）（3）の評価：ワークシートの内容（25%） 到達目標（4）の評価：ワークシートの提出（15%） の総合評価とする。なお、それぞれの評価基準については、初回の講義の時に説明する。 また、出席回数が講義の3分の2に満たない者は試験の評価の対象としない。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 歴史をより多面的に理解するために、「世界の歴史Ⅱ」「日本の歴史Ⅰ・Ⅱ」「沖縄の歴史Ⅰ・Ⅱ」等を履修した上で、「人間文化課題研究Ⅰ・Ⅱ」を修得することを勧める。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	世界の歴史Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	1年	研究室(5434)、またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は、17～18世紀のヨーロッパ史、とくに近代思想の発展とイギリス、フランスの国内政治史との関係について理解することを目的とする。しかし、ヨーロッパ近代思想成立の際にコーヒーハウスが重要な役割を果たしたため、「コーヒーの拡大」をサブテーマとする。また、歴史学は「考える学問」なので、ワークシートの作成を通じた「歴史的なものの考え方」の修得も目的とする。	高校までの暗記による歴史学習とは異なる、当事者として歴史を考える学びを身につけてもらえるような講義とします。例年、登録だけして講義に出ない人が多くいますので、そうしたことは避けてください。
到達目標	(1) 近代ヨーロッパ社会の歴史を思想的側面から理解し、国内状況と政治思想との関係について論理的に説明できる。 (2) 過去の出来事の状態や意義を、当事者の立場に立って考え、自分の言葉で表現できる。 (3) 歴史に関する資料・史料を分析・読解し、その結果を表現できる。 (4) 時間外学習に主体的に取り組み、「考える歴史学」を学ぼうとする姿勢を有することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：講義に関するルールは何か？	ワークシート提出
	2	コーヒーの誕生：コーヒーの実態と起源伝説との間のギャップとは何か？	配付資料の精読、ワークシート提出
	3	イスラーム世界におけるコーヒー①：「スーフイズム」とコーヒーには、どんな関係があるか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	4	イスラーム世界におけるコーヒー②：イスラーム世界でコーヒーが普及した理由は何か？	配付資料の精読、ワークシート提出
	5	イスラーム世界におけるコーヒー③：コーヒーが世界化した理由は何か？	配付資料の精読、ワークシート提出
	6	17世紀イギリスの思想と政治①：17世紀イギリス社会の思想的特徴は何か？	配付資料の精読、ワークシート提出
	7	17世紀イギリスの思想と政治②：ホップズの「社会契約」の特徴は何か？	配付資料の精読、ワークシート提出
	8	17世紀イギリスの思想と政治③：ロックの「社会契約」の特徴は何か？	配付資料の精読、ワークシート提出
	9	17世紀イギリスの思想と政治④：名余革命後「コーヒーハウス」はどのように変化したか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	10	フランス社会と文化①：フランスの宮廷文化の特徴とは何か？	配付資料の精読、ワークシート提出
	11	フランス社会と文化②：18世紀の都市化が文化に与えた影響とは何か？	配付資料の精読、ワークシート提出
	12	フランス社会と文化③：カフェは文化の拡大にどんな影響を与えたか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	13	啓蒙思想とコーヒー①：啓蒙思想とはどんな思潮なのか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	14	啓蒙思想とコーヒー②：啓蒙思想家は、フランス社会をどのように認識していたのか？	配付資料の精読、ワークシート提出
15	啓蒙思想とコーヒー③：カフェとフランス革命の関係は何か？	配付資料の精読	
16	学期末試験	学期末試験の準備	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>特定のテキストは使用しない。 主な参考資料は下記の通り。 ①ユーカーズ『オール・アバウト・コーヒー』（TBSブリタニカ、1995年）②小林章夫『コーヒー・ハウス』（講談社、2000年）④村岡健次・川北稔『イギリス近代史 [改訂版]』（ミネルヴァ書房、2004年）⑤長谷川輝夫他『ヨーロッパ近世の開花』（中央公論社、1997年）他</p>

学びの手立て	<p>① 履修の心構え 単に出席しただけでは、単位の修得につながりません。また、出席自体は評価の対象ではありません。予習（配付資料の精読）、復習（ワークシートの提出）にしっかり取り組んでください。 ② 学びを深めるために 講義内容を振り返ることができる、自分独自の「ノート作成術」を確立してください。ノートは、講義中に作成する「メモ」、講義資料、板書内容等に基づいて、講義の後に復習を兼ねて作成するものです。</p>
--------	---

評価	<p>到達目標（1）の評価：学期末試験（60%） 到達目標（2）（3）の評価：ワークシートの内容（25%） 到達目標（4）の評価：ワークシートの提出（15%） の総合評価とする。なお、それぞれの評価基準については、初回の講義の時に説明する。 また、出席が講義回数の3分の2に満たない者は、試験の評価の対象とはしません。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>歴史をより多面的に理解するために、「世界の歴史Ⅰ」「日本の歴史Ⅰ・Ⅱ」「沖縄の歴史Ⅰ・Ⅱ」等を履修した上で、「人間文化課題研究Ⅰ・Ⅱ」を修得することを勧める。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名 哲学 I	期別 前期	曜日・時限 火 4	単位 2
	担当者 村井 忠康	対象年次 1 年	授業に関する問い合わせ 研究室5503 t.murai@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 哲学において議論されてきたさまざまな問題について、身近な例に即して考えます。取り上げる問題はいまなお未決の問題ばかりですが、だからこそ、自分で考える意義があるととも言えます。哲学の問題に触れながら、私たちが当たり前とと思っている常識をいったん疑い、吟味することを通じて、主体的かつ論理的に考える能力を養うことが、この授業のねらいです。	メッセージ 授業中の発言やリアクションペーパーを通じて、自分の考えを言葉にしてみてください。最初は漠然とした考えや表現であっても、教師や出席者との対話を重ねることで次第に明確になっていくものです。また、扱ってほしい問題やテーマがあれば、初回授業時に伝えてください。授業内容に反映させることも検討します。
	到達目標 ①さまざまな哲学的立場について、ポイントを押さえた理解ができるようになる。 ②哲学の問題について、例に即して考えることができるようになる。 ③概念的・原理的なレベルにまで掘り下げて、物ごとを考えることができるようになる。 ④根拠を挙げながら自分の理解や見解を論述できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ガイダンス：この講義で扱う「哲学」について</td><td>文献をインターネットで検索する</td></tr> <tr><td>2</td><td>「～である」と「～がある」、どう違う？</td><td>述定と存在の違いを理解する</td></tr> <tr><td>3</td><td>「知っている」は定義できるか？</td><td>「定義」の長所と短所を理解する</td></tr> <tr><td>4</td><td>いま夢を見ていないとどうして言えるのか</td><td>知識を疑うステップを理解する</td></tr> <tr><td>5</td><td>ことばは意味をもてるか？</td><td>意味を疑うステップを理解する</td></tr> <tr><td>6</td><td>心と脳は同じか？</td><td>タイプとトークンの対比を理解する</td></tr> <tr><td>7</td><td>昨日の私と今日の私は同じか？</td><td>記憶説の問題点を理解する</td></tr> <tr><td>8</td><td>コウモリであるとはどのような感じか？</td><td>クオリアと表象の対比を理解する</td></tr> <tr><td>9</td><td>哲学のレポートの書き方：論述形式、引用の仕方</td><td>各自でレポート例を添削する</td></tr> <tr><td>10</td><td>行為の理由は原因か？</td><td>行為の因果説の問題点を理解する</td></tr> <tr><td>11</td><td>私たちは「直接」ものを見ているのか？</td><td>錯覚論法のステップを理解する</td></tr> <tr><td>12</td><td>正しく怖がることは可能か？</td><td>感情の認知説を理解する</td></tr> <tr><td>13</td><td>溺れている子供を助けることは、なぜ倫理的に正しいのか？</td><td>規範倫理という考え方を理解する</td></tr> <tr><td>14</td><td>そもそも、倫理的に正しいとはどういうことか？</td><td>メタ倫理という考え方を理解する</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめと質疑応答</td><td>レポート準備</td></tr> <tr><td>16</td><td>予備日</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	ガイダンス：この講義で扱う「哲学」について	文献をインターネットで検索する	2	「～である」と「～がある」、どう違う？	述定と存在の違いを理解する	3	「知っている」は定義できるか？	「定義」の長所と短所を理解する	4	いま夢を見ていないとどうして言えるのか	知識を疑うステップを理解する	5	ことばは意味をもてるか？	意味を疑うステップを理解する	6	心と脳は同じか？	タイプとトークンの対比を理解する	7	昨日の私と今日の私は同じか？	記憶説の問題点を理解する	8	コウモリであるとはどのような感じか？	クオリアと表象の対比を理解する	9	哲学のレポートの書き方：論述形式、引用の仕方	各自でレポート例を添削する	10	行為の理由は原因か？	行為の因果説の問題点を理解する	11	私たちは「直接」ものを見ているのか？	錯覚論法のステップを理解する	12	正しく怖がることは可能か？	感情の認知説を理解する	13	溺れている子供を助けることは、なぜ倫理的に正しいのか？	規範倫理という考え方を理解する	14	そもそも、倫理的に正しいとはどういうことか？	メタ倫理という考え方を理解する	15	まとめと質疑応答	レポート準備	16	予備日		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
	1	ガイダンス：この講義で扱う「哲学」について	文献をインターネットで検索する																																																		
2	「～である」と「～がある」、どう違う？	述定と存在の違いを理解する																																																			
3	「知っている」は定義できるか？	「定義」の長所と短所を理解する																																																			
4	いま夢を見ていないとどうして言えるのか	知識を疑うステップを理解する																																																			
5	ことばは意味をもてるか？	意味を疑うステップを理解する																																																			
6	心と脳は同じか？	タイプとトークンの対比を理解する																																																			
7	昨日の私と今日の私は同じか？	記憶説の問題点を理解する																																																			
8	コウモリであるとはどのような感じか？	クオリアと表象の対比を理解する																																																			
9	哲学のレポートの書き方：論述形式、引用の仕方	各自でレポート例を添削する																																																			
10	行為の理由は原因か？	行為の因果説の問題点を理解する																																																			
11	私たちは「直接」ものを見ているのか？	錯覚論法のステップを理解する																																																			
12	正しく怖がることは可能か？	感情の認知説を理解する																																																			
13	溺れている子供を助けることは、なぜ倫理的に正しいのか？	規範倫理という考え方を理解する																																																			
14	そもそも、倫理的に正しいとはどういうことか？	メタ倫理という考え方を理解する																																																			
15	まとめと質疑応答	レポート準備																																																			
16	予備日																																																				
テキスト・参考文献・資料など	テキストは指定しません。毎回プリントを配布します。参考文献は、入手しやすさや読みやすさ、価格などを考慮しつつ適宜紹介します。ここでは、授業で扱う哲学のスタイルをつかみやすい文献として、以下の二つを挙げておきます。 野矢茂樹『哲学の謎』、講談社現代新書、1996 年 飯田隆『規則と意味のパラドックス』、ちくま学芸文庫、2016年																																																				
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 授業時には、意識的に疑問点を見つけて書き留めるようにしてください。さらに踏み込んで、どうして自分がそうした疑問をもつのか、その理由についても考えてみてください。 授業の復習では、扱った内容を振り返るだけでなく、自分なりに文章化して再現することが重要です。これができるようになるにつれて、授業の理解度も上がっていきます。各回のテーマ同士の思いもよらぬ関連性に気づくこともあるでしょう。 紹介する参考文献のうち、少なくとも一冊は考えながら読み切ってください。疑問のたびに立ち戻ることができる哲学書ができるなら、レポートの作成で壁にぶち当たったとき必ず役立ちます。 																																																				
評価	リアクションペーパーの提出状況 (40%) レポート (60%) ・ 毎回授業の最後に15分ほどリアクションペーパー記入の時間を設けます。授業内容についてのコメントや疑問を記入して、提出してもらいます。 ・ レポートでは具体的な問いを課しますが、授業で紹介した哲学的立場への賛否をその理由とともに述べてください。																																																				

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：「哲学Ⅱ」、「倫理学Ⅰ」および「同Ⅱ」、「人間文化課題研究Ⅰ」および「同Ⅱ」、「環境の倫理学」など。 次のステージ：さらに哲学に触れてみたいひとは、関心のあるテーマや問題を教師に伝えてください。適切な文献を紹介します。
-------	--

科目基本情報	科目名 哲学Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 火4	単位 2
	担当者 村井 忠康	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ 研究室5503 t.murai@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、哲学的観点から知覚と行為について講義します。私たちは、見たり聞いたりといった知覚を通じて世界と出会い、料理を作ったりドアを閉めたりといった行為によって世界に働きかけます。しかし、そこには哲学的な謎がいくつも潜んでいます。知覚と行為をめぐる問題の吟味を通じて、粘り強く抽象的思考を続ける力を養うことが、この講義のねらいです。	メッセージ 授業中の発言やリアクションペーパーを通じて、自分の考えを言葉にしてみてください。最初は漠然とした考えや表現であっても、教師や出席者との対話を重ねることで次第に明確になっていくものです。また、哲学Iの履修者は、入門から少し先に進む意識をもって、参考文献を数冊読み切る姿勢で授業に取り組んでください。
-------	---	---

到達目標	①知覚と行為をめぐるさまざまな哲学的問題について、ポイントを押さえた理解ができるようになる。 ②扱う問題にとって適切な例であるかどうかまで考慮したうえで、例に即した思考ができるようになる。 ③概念的・原理的なレベルにまで掘り下げて、特定のトピックについて粘り強く考えることができるようになる。 ④根拠を挙げながら自分の理解や見解を論述できるようになる。
------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：この授業の概要とスケジュールについて	文献をインターネットで検索する
	2	見ても信じない、信じられないとはどういうことか？	知覚と思考の違いを理解する
	3	見たから知っているとはどういうことか？	知覚的証拠という考えを理解する
	4	見えないものが見える？：価値は知覚可能か？	自分なりの価値観を例として考える
	5	知覚には想像が入り込んでいるか？	知覚・想像・思考の関係を理解する
	6	知覚の哲学は視覚中心主義か？	例示の偏りという問題を理解する
	7	知覚の哲学から行為の哲学へ	知覚と行為の対比を理解する
	8	「わざとじゃなかった」は何を意味するのか？	意図の日常表現をピックアップする
	9	理由なき行為は可能か？	理由のなさそうな行為の例を考える
	10	行為はいつから始まるのか？	行為と時間の結びつきを理解する
	11	私たちに自由意志はあるか？	行為の自由をめぐる諸説を整理する
	12	自分の行為を知っているとはどういうことか？	自己知というテーマを理解する
	13	みんなでするとはどういうことか？	共同行為というテーマを理解する
	14	行為と知覚の境界で揺れる	行為と知覚の境界事例を考える
	15	まとめと質疑応答	レポート準備
16	予備日		

テキスト・参考文献・資料など	テキストは指定しません。毎回プリントを配布します。参考文献は、入手しやすさや読みやすさ、価格などを考慮しつつ適宜紹介します。ここでは、知覚の哲学と行為の哲学の入門書として定評のある文献をそれぞれ挙げておきます。 ウィリアム・フィッシュ『知覚の哲学入門』（山田圭一監訳）、勁草書房、2014年 古田徹也『それはわたしがなしたことなのかー行為の哲学入門』、新曜社、2013年
----------------	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 授業時には、意識的に疑問点を見つけて書き留めるようにしてください。さらに踏み込んで、どうして自分がそうした疑問をもつのか、その理由についても考えてみてください。 授業の復習では、扱った内容を振り返るだけでなく、自分なりに文章化して再現することが重要です。これができるようになるにつれて、授業の理解度も上がっていきます。各回のテーマ同士の思いもよらぬ関連性に気づくこともあるでしょう。 紹介する参考文献のうち、少なくとも一冊は考えながら読み切ってください。疑問のたびに立ち戻ることができる哲学書ができるなら、レポート作成で壁にぶち当たったとき必ず役立ちます。
--------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> リアクションペーパーの提出状況(40%) レポート(60%) 毎回授業の最後に15分ほどリアクションペーパー記入の時間を設けます。授業内容についてのコメントや疑問を記入して、提出してもらいます。 レポートでは具体的な問いを課しますが、授業で紹介した哲学的立場への賛否をその理由とともに述べてください。
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：「哲学I」、「倫理学I」および「同II」、「人間文化課題研究I」および「同II」など。 次のステージ：さらに知覚の哲学と行為の哲学に触れてみたい人は、関心のあるテーマや問題を教師に伝えてください。適切な文献を紹介します。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本の歴史 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	市川 智生	1年	t. ichikawa@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では健康および病気と社会の関係をテーマとする。日本の歴史のなかで、日本人の健康観がどのように形成されたのか、現代社会にどのように継承されているのかを考える機会としたい。なお、欧米諸国および近隣のアジア諸国との比較、日本における沖縄の位置づけについても、なるべく触れる予定である。	健康という概念は、時代や国・地域によって大きく異なる。それは、政治・社会・文化・宗教・環境のあり方を背景として、人間の身体および自然環境への認識や、病気に対する理解が多様だからである。本講義は日本史の未学習者も歓迎する。各回、必要に応じて基礎的な知識も提供する。
到達目標	1) 健康や病気に対する認識が固定的でないことを理解し、その背景にある社会的・自然的要素との関係を説明できる。 2) 現代の健康や病気の問題を、歴史的な視点をもってとらえることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：講義計画の説明、受講に際しての注意	事前にシラバスを熟読のこと。
	2	考古古代① 骨から読み解く縄文・弥生時代の結核	配布資料の復習、参考文献の確認。
	3	同上	同上
	4	考古古代② 古代日本と天然痘	同上
	5	同上	同上
	6	健康と医療に関する映像資料の視聴と批評	同上
	7	中世① 仏教医療とハンセン病	同上
	8	同上	同上
	9	近世① 江戸時代の人々は何歳まで働いたのか？：近世の老人社会	同上
	10	同上	同上
	11	健康と医療に関する映像資料の視聴と批評	同上
	12	近世② 江戸時代の出産と育児	同上
	13	同上	同上
14	近世③ 捨て子習慣にみる江戸時代	同上	
15	同上	同上	
16	試験もしくはレポート	前期分の復習	
テキスト・参考文献・資料など	教科書は使用せず、レジュメを配布する。各論にかかわる文献はその都度紹介する。講義全体にかかわる参考書としては以下の通り。 ・鈴木隆雄『日本人のからだ—健康・身体データ集—』朝倉書店、1996年 ・鹿野正直『健康観にみる近代』朝日新聞社、2001年 ・新村拓『健康の社会史—養生、衛生から健康増進へ—』法政大学出版局、2006年 ・山本太郎『感染症と文明—共生への道—』岩波書店、2011年		
学びの手立て	講義内容の骨格を記したレジュメを毎回配布し、あわせて、歴史資料、絵図、動画などの視聴覚資料をみてもらおう。講義の説明内容、視聴覚資料をみて感じたこと、疑問に思った点などを各自でノートに記入すること。自分なりの記録方法と予習・講義・復習のサイクルを身に付けて欲しい。		
評価	1) 2回の講義でひとつのテーマを扱い、終わるごとにリアクション・ペーパーを実施する。(5点×6回=30点) 2) 映像資料の視聴後にリアクション・ペーパーを実施する。(5点×2回=10点)。 3) 理解度を確認するため論述式の試験もしくはレポートを学期末に実施する。(60点×1回=60点)。 1), 2), 3) の計100点満点で成績評価する。なお、1)および2)の提出回数が合計で2/3に満たない場合は、3)の点数に関係なく不可とする場合がある。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本の歴史I」では前近代、「日本の歴史II」で近現代を取り上げるので、できるだけ両方とも履修すること。「人間文化課題研究I」および「同II」で、同様のテーマを扱ったゼミを開講します。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本の歴史Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	市川 智生	1年	t.ichikawa@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では健康および病気と社会の関係をテーマとする。日本の歴史のなかで、日本人の健康観がどのように形成されたのか、現代社会にどのように継承されているのかを考える機会としたい。なお、欧米諸国および近隣のアジア諸国との比較、日本における沖縄の位置づけについても、なるべく触れる予定である。	健康という概念は、時代や国・地域によって大きく異なる。それは、政治・社会・文化・宗教・環境のあり方を背景として、人間の身体および自然環境への認識や、病気に対する理解が多様だからである。本講義は日本史の未学習者も歓迎する。各回、必要に応じて基礎的な知識も提供する。
到達目標	1) 健康や病気に対する認識が固定的でないことを理解し、その背景にある社会的・自然的要素との関係を説明できる。 2) 現代の健康や病気の問題を、歴史的な視点をもってとらえることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：講義計画の説明、受講に際しての注意	事前にシラバスを熟読のこと。
	2	近現代① 国際貿易と急性感染症の蔓延：コレラ	配布資料の復習、参考文献の確認。
	3	同上	同上
	4	近現代② 日本の工業化と若者の健康問題：結核	同上
	5	同上	同上
	6	健康と医療に関する映像資料の視聴と批評	同上
	7	近現代③ 「風土病」の発見と克服：日本住血吸虫症	同上
	8	同上	同上
	9	近現代④ 「風土病」研究から熱帯医学研究へ：マラリア・フィラリア	同上
	10	同上	同上
	11	健康と医療に関する映像資料の視聴と批評	同上
	12	近現代⑤ 健康の定義と近代日本：健康優良児表彰事業にみる戦前と戦後	同上
	13	同上	同上
14	近現代⑥ 戦後日本の健康問題と農村医療の実践：若月俊一と佐久病院	同上	
15	同上	同上	
16	試験もしくはレポート	後期分の復習	
テキスト・参考文献・資料など	教科書は使用せず、レジュメを配布する。各論にかかわる文献はその都度紹介する。講義全体にかかわる参考書としては以下の通り。 ・鈴木隆雄『日本人のからだ—健康・身体データ集—』朝倉書店、1996年 ・鹿野正直『健康観にみる近代』朝日新聞社、2001年 ・新村拓『健康の社会史—養生、衛生から健康増進へ—』法政大学出版局、2006年 ・山本太郎『感染症と文明—共生への道—』岩波書店、2011年		
学びの手立て	講義内容の骨格を記したレジュメを毎回配布し、あわせて、歴史資料、絵図、動画などの視聴覚資料をみてもらう。講義の説明内容、視聴覚資料をみて感じたこと、疑問に思った点などを各自でノートに記入すること。自分なりの記録方法と予習・講義・復習のサイクルを身に付けて欲しい。		
評価	1) 2回の講義でひとつのテーマを扱い、終わるごとにリアクション・ペーパーを実施する。(5点×6回=30点) 2) 映像資料の視聴後にリアクション・ペーパーを実施する。(5点×2回=10点)。 3) 理解度を確認するため論述式の試験もしくはレポートを学期末に実施する。(60点×1回=60点)。 1), 2), 3) の計100点満点で成績評価する。なお、1)および2)の提出回数が合計で2/3に満たない場合は、3)の点数に関係なく不可とする場合がある。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本の歴史I」では前近代、「日本の歴史II」で近現代を取り上げるので、できるだけ両方とも履修すること。「人間文化課題研究I」および「同II」で、同様のテーマを扱ったゼミを開講します。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間文化課題研究 I	通年	木 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	市川 智生	2年	t. ichikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義では、健康および病気と社会の関係をテーマとし、関連文献の精読と調査発表を骨子とする。日本人の健康観がどのように形成されたのか、現代社会にどのように継承されているのかを学生が主体的に考察する場としたい。なお、健康や医療に関して、欧米諸国および近隣のアジア諸国との比較、日本における沖縄の位置づけについても、注意を払う。	健康と医療をテーマとした論文、小説、映像作品などを選び、輪読あるいは批評を行います。受講者には前期および後期で各2,3回程度の報告がまわってきます。発表および議論を練習する場にもなるので、積極的な参加を希望します。

到達目標	1) 健康、病気、医療、保健の歴史について、基本的な文献を読解し、疑問点を自ら調べることができる。 2) 健康、病気、医療、保健をテーマにした芸術作品（映画、小説）を鑑賞し、それを批評することができる。 3) 現代の健康や病気の問題を、歴史的な視点をもってとらえることができる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：講義計画の説明、受講に際しての注意	事前にシラバスを熟読のこと。
	2	健康・医療の歴史に関する文献精読	発表の準備、参考文献の確認。
	3	同上	同上
	4	同上	同上
	5	同上	同上
	6	同上	同上
	7	同上	同上
	8	同上	同上
	9	同上	同上
	10	同上	同上
	11	同上	同上
	12	同上	同上
	13	同上	同上
	14	同上	同上
	15	同上	同上
	16	健康・医療の歴史に関する映像作品を用いた批評と議論	発表の準備、参考文献の確認。
	17	同上	同上
	18	同上	同上
	19	同上	同上
	20	同上	同上
	21	同上	同上
	22	同上	同上
	23	同上	同上
	24	同上	同上
	25	同上	同上
	26	同上	同上
	27	同上	同上
	28	同上	同上
	29	同上	同上
30	同上	同上	
31	通年のまとめ	通年分の確認	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 教科書は使用せず、レジュメを配布する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 1) 履修の心構え 遅刻、私語厳禁とします。プレゼンテーションやディスカッションの方法については、適宜助言します。 2) 学びを深めるために 疑問点の提示でも構わないので、発表後の議論に積極的に参加すること。</p>
	<p>評価 1) 講義での発表、議論への参加程度 (40点)。 2) 学期末レポート。(30点×2回=60点)。 1), 2) の計100点満点で成績評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 「日本の歴史I, II」で、同様のテーマを講義形式で開講します。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間文化課題研究 I	通年	水 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村井 忠康	2年	研究室5503 t.murai@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では、平易な言葉で書かれた日本語の哲学書を取り上げ、その内容について議論します。そこに何が書かれているのか、その内容が正しいのかどうかについて自由に意見を出し合いながら哲学書を読む体験を通じて、議論というものが共同作業の一種であると知ってもらおうことが、この授業のねらいです。	さしあたり、前期は対話形式の本を、後期は「です・ます調」で幸福について書かれた本を取り上げる予定です。(ただし、初回時にみなさんの関心や希望を聞いたうえで、テキストを変更する可能性もあります。) 議論とは言いましたが、まずは気軽に口を開くことから始めましょう。なお、ここでいう議論とは言い負かそうとすることではなくて、相手から学ぼうとすることです。
到達目標	哲学をするには本を読む必要がありますが、読めばいいというものでもありません。たくさん哲学書を読んで哲学者や哲学用語に詳しくなっても、それをもとに自分で哲学的に考えることができなければ、哲学をすることはできません。とはいえ、自分でちゃんと考えるというのは、言うほど簡単ではありません。それができるようになる一つの道は、「わかりそうだけどすぐにはわからない、でもわかりたい」と思える哲学の文章をじっくり何度も読むことです。そこで、この授業の目標は次の二点とします。 ①書かれている内容を口頭で説明できるようになる。 ②ある程度まとまった文章で自分の見解を述べるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期ガイダンス：授業の進め方の説明、テキストの確定	配布資料を読む
	2	輪読と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	3	輪読と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	4	輪読と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	5	輪読と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	6	輪読と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	7	まとめと議論	これまでの箇所を通して再読する
	8	輪読と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	9	輪読と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	10	輪読と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	11	輪読と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	12	輪読と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	13	輪読と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	14	輪読と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	15	まとめと議論	レポート準備
	16	後期ガイダンス：レジュメ分担の決定	配布資料を読む
	17	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	18	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	19	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	20	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	21	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	22	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	23	レジュメ発表と議論	これまでの箇所を通して再読する
	24	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	25	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	26	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	27	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	28	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	29	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
30	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む	
31	まとめと議論	レポート準備	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>さしあたり、次のテキストを読む予定です。 前期：飯田隆『新哲学対話』、筑摩書房、2017年（四編の対話編からなりますが、最初的一篇と他もう一篇くらいを読むつもりです。） 後期：青山拓央『幸福はなぜ哲学の問題になるのか』、太田出版、2016年（最終章は固めの文章で付録的な章もあるので、その前の6章までを読むつもりです。）</p>
学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回授業の最後にリアクションペーパー記入の時間を10～15分程度設けるので、発言がまだ難しいと思う人は、ひとまずはこちらに意見を書いてください。 ・議論とは、一緒に何かを作り出すことだという意識をもってください。お互いの間違いを修正し合うことを通じて、一人では思いもよらなかった結論に達するなら、そこには共同作業が成り立っています。 ・前期は輪読形式でおこないます。後期は毎回担当者が事前にレジюмеを作成し、それをもとにテキストの内容を簡単に報告してもらいます。後期の初回授業で、少なくとも一人1回は担当が回ってくるように分担を決めます。
評価	<p>レポート（50%）平常点（40%）リアクションペーパー提出状況（10%）</p>
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：「哲学Ⅰ」および「同Ⅱ」、「倫理学Ⅰ」および「同Ⅱ」、「エコロジーの思想」、「環境の倫理学」など 次のステージ：さらに哲学に触れてみたいひとは、関心のあるテーマや問題を教師に伝えてください。適切な文献を紹介します。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間文化課題研究 I	通年	水 3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	2年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 固有言語による表現を通じて、多数派の文化のみならず、さまざまな人間の文化を知り、文化とコミュニケーションのあり方を探ることで、多文化共生の道を目指します。	メッセージ 現生人類が誕生してから約20万年と言われますが、いわゆる人間の「文明」が誕生してからは5000年ほどしか経っていません。人間の文化的な営みについて「ことば」を読み解くことを通して、迫っていきたいと思います。「ことば」に関心のある人の受講を求めます。
	到達目標 人間の多様な文化に関心を持ち、それら文化を尊重して、「ことば」の側面からアプローチできる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・課題の提示	レジュメ作成
	2	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	3	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	4	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	5	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	6	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	7	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	8	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	9	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	10	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	11	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	12	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	13	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	14	人間文化の言語テキスト読解	学期末レポート作成
	15	学期末レポート提出	課題（夏休み）
	16	後期オリエンテーション	講義準備
	17	人間文化の言語の文法	練習問題
	18	人間文化の言語の文法	練習問題
	19	人間文化の言語の文法	練習問題
	20	人間文化の言語の文法	練習問題
	21	人間文化の言語の文法	中間試験の準備
	22	中間試験	中間試験の復習・レジュメ作成
	23	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	24	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	25	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	26	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	27	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	28	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	29	人間文化の言語テキスト読解	学期末試験の準備
30	学期末試験	学期末試験の復習	
31	予備日	課題（春休み）	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など その都度指示します。辞典を各自毎回持参してください（紙媒体・電子辞書いずれも可）。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 「ことば」に関心のある人の受講を求めます。通年の発表形式の授業です。発表担当者は責任をもってレジユメを準備し発表すること。</p>
	<p>評価 平常点（60%）、試験（20%）、レポート（20%）で総合的に判断します。平常点では、レジユメ作成、授業に対する姿勢（積極的な発言など）、授業における発表の内容についても評価します。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 コミュニケーション論（共通科目）あるいは多文化共生論（日本文化学科科目）</p>

※ポリシーとの関連性 共通科目であり、一般教養として知識、考察力、表現力を身に付け、芸術や美術に関連する知識・教養を習得する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間文化課題研究 I	通年	水 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	2年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本ゼミでは、芸術学の主要分野である美術史の領域において、美術史の方法論の展開から現代アートまでを概観する。さらに各々の研究課題を設定し、調査し、解釈学や記号論といった視点から作品の特色・意義を学ぶことができる。また、実際に学生自身が創作してみる。	この科目では、学生自身が調査したい作家や作品、作成したい絵画や写真、映画、オブジェなどに取り組んでいく。

到達目標
1. 各芸術領域の史学、特性を説明することができる。 2. 各々の研究分野を設定し、その調査、分析を行うことができる。 3. 研究成果を発表・評価・改善することができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスの確認・自己紹介・オリエンテーションなど	シラバスの確認 (ゼミ内容確認)
	2	自分マップ作成(Who am I ?)	自分と作品との関係事前
	3	自分マップ作成(Who am I ?)	自分と作品との関係事前
	4	自分マップ作成(Who am I ?)	自分と作品との関係事前
	5	自分マップ発表(Who am I ?)	自分と作品との関係事前
	6	自分マップ発表(Who am I ?)	自分と作品 (可視化) に向けて
	7	自分マップ発表(Who am I ?)	自分と作品 (可視化) に向けて
	8	研究課題調査 (設定)	後期の作品調査研究開始
	9	研究課題調査 (設定)	後期の作品調査研究開始
	10	研究課題調査中間報告	後期の作品調査研究開始
	11	研究課題調査中間報告	後期の作品調査研究開始
	12	研究課題調査中間報告	後期の作品調査研究開始
	13	学祭の作品制作取り組み	後期の作品調査研究開始
	14	学祭の作品制作取り組み	学祭の役割分担事前調整
15	学祭の作品制作取り組み報告・発表	学祭の役割分担事前調整	
16	学祭の作品制作取り組み報告・発表	学祭の役割分担事前調整	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 美術・芸術学関連参考文献 (映像資料も含む) を適宜配布 西洋美術の読み方 (パトリック・デ・リンク 創元社)、日本の美術 (辻惟雄 東京大学出版会) 自己表現メソッドクリストフ・アンドレ 紀伊國屋書店) など、他多数
-------	---

学びの手立て	自分の好きな作家や作品に対して関心を高める。美術館や博物館、ギャラリーなどを積極的に観覧する。
--------	---

評価	1. 研究・調査に対する取り組み (平常点20%) 2. 研究・調査内容の完成度 (50%) 3. 授業・態度、発表状況 (授業参加度30%)
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 共通のゼミなので互いに芸術・美術をとおして他学科の学生と交流や刺激が生まれ、全ての芸術関連科目に対して関心が高くなる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間文化課題研究Ⅱ	通年	木2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	市川 智生	3年	t. ichikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義では、健康および病気と社会の関係をテーマとし、関連文献の精読と調査発表を骨子とする。日本人の健康観がどのように形成されたのか、現代社会にどのように継承されているのかを学生が主体的に考察する場としたい。なお、健康や医療に関して、欧米諸国および近隣のアジア諸国との比較、日本における沖縄の位置づけについても、注意を払う。	健康と医療をテーマとした論文、小説、映像作品などを選び、輪読あるいは批評を行います。受講者には前期および後期で各2,3回程度の報告がまわってきます。発表および議論を練習する場にもなるので、積極的な参加を希望します。

到達目標	1) 健康、病気、医療、保健の歴史について、基本的な文献を読解し、疑問点を自ら調べることができる。 2) 健康、病気、医療、保健をテーマにした芸術作品（映画、小説）を鑑賞し、それを批評することができる。 3) 現代の健康や病気の問題を、歴史的な視点をもってとらえることができる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：講義計画の説明、受講に際しての注意	シラバスの熟読。
	2	健康・医療の歴史に関する文献精読	発表の準備、参考文献の確認。
	3	同上	同上
	4	同上	同上
	5	同上	同上
	6	同上	同上
	7	同上	同上
	8	同上	同上
	9	同上	同上
	10	同上	同上
	11	同上	同上
	12	同上	同上
	13	同上	同上
	14	同上	同上
	15	同上	同上
	16	健康・医療の歴史に関する映像作品を用いた批評と議論	発表の準備、参考文献の確認。
	17	同上	同上
	18	同上	同上
	19	同上	同上
	20	同上	同上
	21	同上	同上
	22	同上	同上
	23	同上	同上
	24	同上	同上
	25	同上	同上
	26	同上	同上
	27	同上	同上
	28	同上	同上
	29	同上	同上
30	同上	同上	
31	通年のまとめ	通年分の確認	

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 教科書は使用せず、レジュメを配布する。</p>
	<p>学びの手立て 1) 履修の心構え 遅刻、私語厳禁とします。プレゼンテーションやディスカッションの方法については、適宜助言します。 2) 学びを深めるために 疑問点の提示でも構わないので、発表後の議論に積極的に参加すること。</p>
	<p>評価 1) 講義での発表、議論への参加程度（40点）。 2) 学期末レポート。（30点×2回=60点）。 1), 2) の計100点満点で成績評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 「日本の歴史I, II」で、同様のテーマを講義形式で開講します。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間文化課題研究Ⅱ	通年	水4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村井 忠康	3年	研究室5503 t.murai@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では、平易な言葉で書かれた日本語の哲学書を取り上げ、その内容について議論します。そこに何が書かれているのか、その内容が正しいのかどうかについて自由に意見を出し合いながら哲学書を読む体験を通じて、議論というものが共同作業の一種であると知ってもらおうことが、この授業のねらいです。	さしあたり、前期は対話形式の本を、後期は「です・ます調」で幸福について書かれた本を取り上げる予定です。(ただし、初回時にみなさんの関心や希望を聞いたうえで、テキストを変更する可能性もあります。) 議論とは言いましたが、まずは気軽に口を開くことから始めましょう。なお、ここでいう議論とは言い負かそうとすることではなくて、相手から学ぼうとすることです。
到達目標	哲学をするには本を読む必要がありますが、読めばいいというものでもありません。たくさん哲学書を読んで哲学者や哲学用語に詳しくなっても、それをもとに自分で哲学的に考えることができなければ、哲学をしていることにはなりません。とはいえ、自分でちゃんと考えるというのは、言うほど簡単ではありません。それができるようになる一つの道は、「わかりそうだけどすぐにはわからない、でもわかりたい」と思える哲学の文章をじっくり何度も読むことです。そこで、この授業の目標は次の二点とします。 ①書かれている内容を口頭で説明できるようになる。 ②ある程度まとまった文章で自分の見解を述べるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期ガイダンス：授業の進め方の説明、テキストの確定	配布資料を読む
	2	輪読と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	3	輪読と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	4	輪読と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	5	輪読と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	6	輪読と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	7	まとめと議論	これまでの箇所を通して再読する
	8	輪読と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	9	輪読と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	10	輪読と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	11	輪読と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	12	輪読と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	13	輪読と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	14	輪読と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	15	まとめと議論	レポート準備
	16	後期ガイダンス：レジュメ分担の決定	配布資料を読む
	17	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	18	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	19	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	20	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	21	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	22	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	23	レジュメ発表と議論	これまでの箇所を通して再読する
	24	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	25	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	26	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	27	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	28	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	29	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
30	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む	
31	まとめと議論	レポート準備	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>さしあたり、次のテキストを読む予定です。 前期：飯田隆『新哲学対話』、筑摩書房、2017年（四編の対話編からなりますが、最初的一篇と他もう一篇くらいを読むつもりです。） 後期：青山拓央『幸福はなぜ哲学の問題になるのか』、太田出版、2016年（最終章は固めの文章で付録的な章もあるので、その前の6章までを読むつもりです。）</p>
学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回授業の最後にリアクションペーパー記入の時間を10～15分程度設けるので、発言がまだ難しいと思う人は、ひとまずはこちらに意見を書いてください。 ・議論とは、一緒に何かを作り出すことだという意識をもってください。お互いの間違いを修正し合うことを通じて、一人では思いもよらなかった結論に達するなら、そこには共同作業が成り立っています。 ・前期は輪読形式でおこないます。後期は毎回担当者が事前にレジюмеを作成し、それをもとにテキストの内容を簡単に報告してもらいます。後期の初回授業で、少なくとも一人1回は担当が回ってくるように分担を決めます。
学	<p>評価</p> <p>レポート（50%）平常点（40%）リアクションペーパー提出状況（10%）</p>
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>“関連科目：「哲学Ⅰ」および「同Ⅱ」、「倫理学Ⅰ」および「同Ⅱ」、「エコロジーの思想」、「環境の倫理学」など 次のステージ：さらに哲学に触れてみたいひとは、関心のあるテーマや問題を教師に伝えてください。適切な文献を紹介します。”</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間文化課題研究Ⅱ	通年	水3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	3年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 固有言語による表現を通じて、多数派の文化のみならず、さまざまな人間の文化を知り、文化とコミュニケーションのあり方を探ることで、多文化共生の道を目指します。	メッセージ 現生人類が誕生してから約20万年と言われますが、いわゆる人間の「文明」が誕生してからは5000年ほどしか経っていません。人間の文化的な営みについて「ことば」を読み解くことを通じて、迫っていきたいと思います。「ことば」に関心のある人の受講を求めます。
	到達目標 人間の多様な文化に関心を持ち、それら文化を尊重して、「ことば」の側面からアプローチできる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・課題の提示	レジュメ作成
	2	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	3	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	4	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	5	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	6	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	7	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	8	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	9	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	10	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	11	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	12	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	13	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	14	人間文化の言語テキスト読解	学期末レポート作成
	15	学期末レポート提出	課題（夏休み）
	16	後期オリエンテーション・学習言語を決める	講義準備
	17	人間文化の言語の文法	練習問題
	18	人間文化の言語の文法	練習問題
	19	人間文化の言語の文法	練習問題
	20	人間文化の言語の文法	練習問題
	21	人間文化の言語の文法	中間試験の準備
	22	中間試験	中間試験の復習・レジュメ作成
	23	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	24	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	25	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	26	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	27	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
	28	人間文化の言語テキスト読解	レジュメ作成
29	人間文化の言語テキスト読解	学期末試験の準備	
30	学期末試験	学期末試験の復習	
31	予備日	課題（春休み）	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など その都度指示します。辞典を各自毎回持参してください（紙媒体・電子辞書いずれも可）。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 「ことば」に関心のある人の受講を求めます。通年の発表形式の授業です。発表担当者は責任をもってレジユメを準備し発表すること。</p>
	<p>評価 平常点（60%）、試験（20%）、レポート（20%）で総合的に判断します。平常点では、レジユメ作成、授業に対する姿勢（積極的な発言など）、授業における発表の内容についても評価します。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 コミュニケーション論（共通科目）あるいは多文化共生論（日本文化学科科目）</p>

※ポリシーとの関連性 共通科目であり、一般教養として知識、考察力、表現力を身に付け、芸術や美術に関連する知識・教養を習得する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間文化課題研究Ⅱ	通年	水2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	3年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	後期のゼミでは、前期に行った調査・研究を発表し、最終的に展示できるまでの完成度を上げていく。作品制作も同様で前期で創作した作品を発表・展示をすること。	この科目では、学生自身が調査したい作家や作品、作成したい絵画や写真、映画、オブジェなどに取り組み、発表する。

到達目標
1. 各芸術領域の史学、特性を説明することが出来る。 2. 各々の研究分野を設定し、その調査、分析、発表することが出来る。 3. 研究成果を発表・評価・改善することが出来る。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	学祭の取り組み (美女カレンダー作成)	前期からの取り組み
	2	学祭の取り組み (美女カレンダー作成)	モデル応募方法
	3	学祭の取り組み (美女カレンダー作成)	ネット構築 (広報活動方法)
	4	学祭の取り組み (美女カレンダー作成)	モデル選考事前学習
	5	学祭の取り組み (美女カレンダー作成)	モデル撮影 (学外時間)
	6	最終課題研究発表 (コンセプトノート作成)	最終制作について事前学習
	7	最終課題研究発表 (コンセプトノート作成)	最終制作について事前学習
	8	最終課題研究発表 (コンセプトノート発表)	最終制作について事前学習
	9	最終課題研究発表 (コンセプトノート発表)	最終制作発表について事前学習
	10	最終課題研究発表 (作品制作)	作品制作に向けて事前学習
	11	最終課題研究発表 (作品制作)	作品制作に向けて事前学習
	12	最終課題研究発表 (作品制作)	作品制作に向けて事前学習
	13	最終課題研究発表 (作品制作)	作品制作に向けて事前学習
	14	最終課題研究発表 (作品発表)	作品発表に向けて事前学習
15	最終課題研究発表 (作品発表)	作品発表に向けて事前学習	
16	最終課題研究発表 (作品発表)	展示会に向けて事前学習	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	美術・芸術学関連参考文献 (映像資料も含む) を適宜配布 西洋美術の読み方 (パトリック・デ・リンク 創元社)、日本の美術 (辻惟雄 東京大学出版会) 自己表現メソッドクリストフ・アンドレ 紀伊國屋書店) など、他多数

学びの手立て	自分の好きな作家や作品に対して関心を高める。美術館や博物館、ギャラリーなどを積極的に観覧する。
--------	---

評価	1. 研究・調査に対する取り組み (平常点20%) 2. 研究・調査内容の完成度 (50%) 3. 授業・態度、発表状況 (授業参加度30%)
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 共通のゼミなので互いに芸術・美術をとおして他学科の学生と交流や刺激が生まれ、全ての芸術関連科目に対して関心が高くなる。
-------	--

※ポリシーとの関連性 フェミニズムという思想を通して社会をみることによって、自分らしい生き方を模索する力をつける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フェミニズム思想	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-具志堅 邦子	1年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい フェミニズムが問題にしてきたことをキーワードを中心に理解し、支配されない/支配しない社会の構築をめざす。	メッセージ フェミニズムはみんなのもの！
	到達目標 フェミニズム思想を学ぶことによって、女であること・男であること・そのいずれでもないことによる呪縛から解放されると同時に、その人が大切に思う何ものも失わずに——女であることも、男であることも、そしてどちらでもないことも、すべてを含めて——存在しつづけるという思想を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	配布資料を熟読すること
	2	フェミニズム思想史	配布資料を熟読すること
	3	家父長制	配布資料を熟読すること
	4	騎士道とロマンティックラブ・イデオロギーと資本主義	配布資料を熟読すること
	5	フェミニズムと母性愛	配布資料を熟読すること
	6	乳房はどう表象されてきたのか	配布資料を熟読すること
	7	セクシュアリティ	配布資料を熟読すること
	8	レイプ	配布資料を熟読すること
9	生-権力	配布資料を熟読すること	
10	男らしさのボックス (1)	配布資料を熟読すること	
11	男らしさのボックス (2)	配布資料を熟読すること	
12	位牌継承慣行とフェミニズム (1)	配布資料を熟読すること	
13	位牌継承慣行とフェミニズム (2)	配布資料を熟読すること	
14	日本と沖縄のフェミニズム運動	配布資料を熟読すること	
15	フェミニズムを自分のものにする	配布資料を熟読すること	
16	課題 (テスト)	半期間の総復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。参考文献は講義で適宜紹介します。		
	学びの手立て 自分の問題や問いと向かい合いながら受講してください。		
	評価 発見だったこと、感じたことなどをリアクション・ペーパー (授業参加度とする) に書いて提出。授業参加度 (80%) と課題 (20%) で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目、次のステージ：「女性と文化」「ジェンダー論」「哲学」「歴史」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文学 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岡野 薫	1 年	k.okanoあつとまあくoki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業は文学を入口として異文化を知ることがねらいです。ドイツ語圏の文学を扱います。「文学 I」は、ドイツ語圏とは何かからスタートして、中世から現代まで、その時々の特徴的な作品に光をあてて紹介します。背景となる文化、社会、歴史と併せて作品をみてゆきましょう。	メッセージ 作品が提示する生き方や考え方に共感できるかもしれません。あるいは、まったく異なる考え方にであうかも知れません。文学を通じて、さまざまな生き方、考え方にふれてください。そしてじぶんで考えてみましょう。講義形式の授業ですが、コメントやリアクション・ペーパーの提出を求めています。授業を聴くだけでなく自分なりの考えをまとめて言語化してください。
	到達目標 講義を通じて次のことを学ぶことができます。 ①ドイツ語圏の文学について具体的な作品を挙げ、それを説明することができる。 ②作品を通じてさまざまな生き方や考え方を学び、それに対するじぶんの見解を述べるすることができる。 ③文学を通じてドイツ語圏の世界観を理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドランス：ドイツ語圏について	シラバスをよく読む
	2	礼節を学ぶ—宮廷叙事詩—：ヴォルフラム・フォン・エッシェンバッハ『パルチヴァール』	参考文献を読む
	3	盛者必衰—英雄叙事詩—：『ニーベルンゲンの歌』	参考文献を読む
	4	盛者必衰—英雄叙事詩—：『ニーベルンゲンの歌』	参考文献を読む
	5	近世の笑い—「民衆本」の世界—：『ティル・オイレンシュピーゲルの愉快な物語』	参考文献を読む
	6	ドイツ人とユダヤ人—文学における他者—：グリム童話「いばらの中のユダヤ人」	参考文献を読む
	7	ドイツ人とユダヤ人—共生の夢—：レッシング『賢者ナータン』	レビューを書く
	8	シュトゥルム・ウント・ドラング：ゲーテ『若きウェルテルの悩み』	参考文献を読む
9	シュトゥルム・ウント・ドラング：ゲーテ『若きウェルテルの悩み』	参考文献を読む	
10	人生の探求—ゲーテの世界—：『ファウスト』	参考文献を読む	
11	時よ留まれ！—ゲーテの世界—：『ファウスト』	参考文献を読む	
12	不気味なもの—の正体—幻想文学—：E・T・A・ホフマン『砂男』	参考文献を読む	
13	なじかは知らねど心わびて—ライン河伝説の系譜—：ハイネ「ローレライ」	参考文献を読む	
14	ある朝のできごと—非日常的な日常—：カフカ『変身』	参考文献を読む	
15	自分自身への道—大衆時代の文学—：ヘッセ『デーミアン』	試験準備	
16	学期末試験	前期の学びのふりかえり	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。 参考文献：手塚富雄，神品芳夫著『増補 ドイツ文学案内』（岩波文庫，1993，ISBN：978-4003500033）。 資料：授業時に随時紹介します。		
	学びの手立て 次のことを実践してみてください。 ①参考文献に挙げた『ドイツ文学案内』を読む。同書は簡単に入手でき、初学者にもやさしいロングセラーです。授業と並行して読むと、ドイツ語圏についてより深く理解できます。 ②作品を読む。文学を学ぶには自分で作品を読むことがいちばん大切です。授業で紹介した作品は難解なものではありません。ぜひ手に取って読んで下さい。		
	評価 平常点（授業参加，リアクション・ペーパー）40%，学期末試験60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ：文学 II，関連科目：ヨーロッパ研究，ドイツ語
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文学Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上江洲 律子	1年	授業の前後に教室で行います。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>歴史が事実の記録だとすれば、文学はその時代を生きた人間の「感性」の記録だと言えるでしょう。この授業ではフランス語圏の文学を1つの窓として、私たちとは異なる文化を背景としている人々の「ものの見方」に触れ、また、その時代による変遷を追いながら、人間の在り方への考察を深めることを目指します。</p>	<p>読書は旅することに似ています。フランス語圏の本を読むことを通じて、「時」と「場」を越えた世界を旅してみましょう。ただし、その「冒険」に、手ぶらで旅立てる人もいれば、旅の装備が必要な人もいます。どちらの人も、その本の「扉」を開く前に、この授業で旅の準備を整えてみませんか。</p>
到達目標	<p>次の3つの点を習得することを目標とします。</p> <p>①フランス語圏の文学において、時代を代表する作品の概要を把握すること。</p> <p>②その作品が生み出された時代的な背景や作者自身の生き方についての知識を獲得すること。</p> <p>③その作品から浮かび上がる時代的な眼差しへの理解を深めること。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスと課題についての説明	課題作成の準備
	2	16世紀：ラブレール『ガルガンチュアとパンタグリユエル物語』（1）	課題作成の準備
	3	16世紀：ラブレール『ガルガンチュアとパンタグリユエル物語』（2）	課題作成の準備
	4	17世紀：ペロー『昔話集』（1）	課題作成の準備
	5	17世紀：ペロー『昔話集』（2）	課題作成の準備
	6	17世紀：ペロー『昔話集』（3）	課題作成の準備
	7	18世紀：サン＝ピエール『ポールとヴィルジニー』（1）	課題作成の準備
8	18世紀：サン＝ピエール『ポールとヴィルジニー』（2）	課題作成の準備	
9	19世紀：ユゴー『ノートル＝ダム・ド・パリ』（1）	課題作成の準備	
10	19世紀：ユゴー『ノートル＝ダム・ド・パリ』（2）	課題作成の準備	
11	20世紀：ブルースト『失われた時を求めて』（1）	課題作成の準備	
12	20世紀：ブルースト『失われた時を求めて』（2）	課題作成の準備	
13	20-21世紀：クリストフ『悪童日記』（1）	課題作成の準備	
14	20-21世紀：クリストフ『悪童日記』（2）	課題作成	
15	20-21世紀：クリストフ『悪童日記』（3）とまとめ	課題作成	
16			
テキスト・参考文献・資料など	<p>授業内で必要に応じてプリントを配付します。</p> <p>※参考文献についても授業内で必要に応じて紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>①「履修の心構え」</p> <p>作品を紹介する際には、日本語に翻訳された本を使用します。受講にあたり、フランス語の学習経験の有無を問いませんので、興味のある方は受講して下さい。</p> <p>②「学びを深めるために」</p> <p>何よりも大切なことは、実際に本を手に取り「読む」ことです。その繰り返しを通して、本の中から多くのことを汲み取ることでできる力を身に付けていきましょう。</p>		
評価	<p>提出課題（書評）の得点（60%）と平常点（40%）で評価します。</p> <p>※ただし、単位修得のためには、授業の3分の2以上の出席を義務づけます。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>今後、さらにさまざまな角度から人間の在り方についての考察を深めると同時に、日本とは異なる文化であるヨーロッパへの関心を高めて頂きたいと思えます。そのための関連科目として、人間文化課題研究Ⅰ・Ⅱ（演習）やヨーロッパ研究Ⅰ・Ⅱ（講義）、国際理解課題研究Ⅰ・Ⅱ（演習）があります。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	平和と文化	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-吉川 由紀	1年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 人権、平和、戦争などをテーマに、多くの人々の人生に触れながら、他者の語りに耳を傾け、理解し、自身の言葉で伝える力を養います。	メッセージ 簡単には解決方法や答えが見いだせない、この社会が抱える問題を、さまざまな切り口から考えてみませんか。講義では、現場で活動している人の報告や体験者の、生の証言を聴く時間ももちます。大学生のいまこそ、考える力を一緒に培いましょう。
	到達目標 レポートは、オーラル・ヒストリー（他者の経験と認識を聴き、記憶を記録する作業）の実践です。語りを聴く力、それを理解しようとする力が鍛えられるとともに、他者を尊重しようとする力や想像力、また第三者に伝える力を育みます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクションー隣で生きている人の「歴史」に耳を傾ける	レポートテーマと証言者の決定
	2	沖縄戦体験者の声を聴く、記録する	//
	3	慰霊塔／慰霊碑に聴く	//
	4	場所に聴くー戦争遺跡を通して	聴き取り項目の検討
	5	土に聴くー遺骨収集の現場から	//
	6	対馬丸事件に学ぶ① 事件を忘れないために	//
	7	対馬丸事件に学ぶ② 海の戦争の実態	聴き取り、文字化、再聴き取り
	8	対馬丸事件に学ぶ③ 体験者の証言を聴く	//
	9	ハンセン病問題の歴史を糧に① 終生絶対隔離とは何か	//
	10	ハンセン病問題の歴史を糧に② 沖縄のハンセン病差別被害	//
	11	ハンセン病問題の歴史を糧に③ 差別と向き合って生きる	//
	12	ハンセン病問題の歴史を糧に④ 回復者の証言を聴く	//
	13	何をどのように伝えるかー語りだす遺品	まとめ
	14	加害と被害を抱えて生きるー満州移民の歴史とは	//
15	まとめー実践から見えてくるもの	他の学生のまとめを共有	
16	総括		
テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しません。毎回レジュメを配布します。DVDやパワーポイントを用いて授業をすすめます。 【参考文献】 『オキナワを平和学する』石原昌家・仲地博編、法律文化社、2005年 『新版ライブヒストリーを学ぶ人のために』谷富夫編、世界思想社、2008年 その他は、講義の中で適宜紹介します。			
学びの手立て 県内外・国内外を問わず、戦争・平和・人権問題を扱った資料館・博物館を積極的に見学すると、理解が深まります。また、証言集など聴き書きをまとめた文献に目を通すことも有意義です。			
評価 授業への参加状況（出席、理解・疑問点の整理。30%）とレポート（70%）を総合して行います。10回以上の出席がないと、レポートは採点しません。レポートのテーマ及び執筆要綱は第1回目の講義で発表するので注意してください。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 平和と文化について、人間文化科目群だけではなくその他の科目群の科目で幅広く学ぶとともに、日々の暮らしの中で平和と文化について考え続けてほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	倫理学 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村井 忠康	1年	研究室5503 t.murai@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>私たちが社会生活を送る中で倫理的に考えないことは、およそ不可能でしょう。たとえば、ある人のしたことが法的には許されても倫理的には許されないと考えるようなとき、漠然とであれ倫理というもの理解しているはず。このような倫理の正体を解き明かそうとする現代の理論を学ぶことによって、日々の倫理的問題について深く考える力を養うことが、この授業のねらいです。</p>	<p>授業中の発言やリアクションペーパーを通じて、自分の理解を言葉にしてみてください。倫理学のさまざまな立場と自分自身の倫理観の一致不一致がどこにあるのかを突き止めようとする、「そうそう、その通り」や「いや、そんなはずはない」という反応とともに意外に言葉が浮かんでくるものです。また、教科書の該当箇所に目を通したうえで授業に臨んでください。</p>
到達目標	<p>①現代のさまざまな倫理学上の立場について、ポイントを押さえた理解ができるようになる。 ②具体例に即して倫理的な思考ができるようになる。 ③概念的・原理的なレベルで倫理について考えることができるようになる。 ④根拠を挙げながら自分の理解や見解を論述できるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：この授業の概要とスケジュール	配布資料を読む
2	倫理と合理性	テキストP9～25を事前に読む	
3	功利主義	同P27～35を事前に読む	
4	義務論と徳倫理学	同P36～50を事前に読む	
5	権利論	同P51～62を事前に読む	
6	法と倫理	同P62～71を事前に読む	
7	法による強制	同P72～79を事前に読む	
8	規範倫理学とは何か	同P83～87を事前に読む	
9	功利主義ふたたび	同P91～95を事前に読む	
10	功利主義の問題点	同P96～104を事前じ読む	
11	義務論ふたたび	同P106～116を事前に読む	
12	義務論の問題点	同P116～125を事前に読む	
13	徳倫理学ふたたび	同P127～137を事前に読む	
14	徳倫理学の問題点	同P137～145を事前に読む	
15	まとめと質疑応答	試験準備	
16	学期末試験	試験準備	
	テキスト・参考文献・資料など		
	下記のテキストを教科書として使用します。 赤林朗・児玉聡編『入門・倫理学』、勁草書房、2018年		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> 授業時には、意識的に疑問点を見つけて書き留めるようにしてください。さらに踏み込んで、どうして自分がそうした疑問をもつのか、その理由についても考えてみてください。 授業の復習では、扱った内容を振り返るだけでなく、自分なりに文章化して再現することが重要です。これができるようになるにつれて、授業の理解度も上がっていきます。 教科書は繰り返し読んでください。今回使用する教科書はかなり練られた構成なので、講義と合わせて読めば、現代倫理学の基本事項のほとんどがかなりの精度で理解できます。 		
	評価		
	<ul style="list-style-type: none"> リアクションペーパーの提出状況(40%) 学期末試験(60%) 毎回授業の最後に15分ほどリアクションペーパー記入の時間を設けます。授業内容についてのコメントや疑問を記入して、提出してもらいます。 期末試験では、知識を問う問題と記述問題を出題します。 		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：「倫理学Ⅱ」、「人間文化課題研究Ⅰ」および「同Ⅱ」、「環境の倫理学」など。 次のステージ：さらに哲学に触れてみたいひとは、関心のあるテーマや問題を教師に伝えてください。適切な文献を紹介します。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	倫理学Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村井 忠康	1年	研究室5503 t.murai@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では、メタ倫理学と呼ばれる高度に理論的な分野の諸説について紹介し、続いて、倫理と切っても切れない関係にあり、私たちにも馴染み深い政治の哲学について扱います。倫理学Iで扱った内容からさらに進んで現代倫理学の広大な広がりに触れることによって、理論面と実践面のバランスのとれた倫理的思考のための基礎を養うことが、この講義のねらいです。	教科書は講義後も該当箇所を何度も熟読してください。この授業で扱う部分は、この教科書の中でもやや難易度が高いパートですが、講義での解説と合わせて読めば、十分な理解に達することができます。疑問やコメントのためのリアクションペーパーも大いに活用してください。また、倫理学Iを履修しておくことが望ましいですが、意欲がある未履修者も歓迎します。
到達目標	①現代倫理学の広がりについて、より良い見通しをもてるようになる。 ②具体例に即して倫理的な思考ができるようになる。 ③概念的・原理的なレベルで倫理について考えることができるようになる。 ④根拠を挙げながら自分の理解や見解を論述できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：この授業の概要とスケジュール	配布資料を読む
	2	メタ倫理学のメタとはどういう意味か？	テキスト第3部概説を事前に読む
	3	実在論・認知主義という考え方	同P159～167を事前に読む
	4	その問題点	同P167～175を事前に読む
	5	反実在論・反認知主義という考え方	同P177～186を事前に読む
	6	その問題点	同P186～193を事前に読む
	7	反実在論の現在	同P195～202を事前に読む
	8	実在論の現在	同P207～231を事前に読む
	9	政治哲学の概要	同P235～238を事前に読む
	10	リベラリズムとは何か？	同P289～241を事前に読む
	11	政治哲学における功利主義	同P242～246を事前に読む
	12	リベラル平等主義	同P246～255を事前に読む
	13	リバタリアニズム	同P255～261を事前に読む
14	現代リベラリズムの対抗理論	同P263～292を事前に読む	
15	まとめと質疑応答	試験準備	
16	学期末試験	試験準備	
実践	テキスト・参考文献・資料など	「倫理学I」から引き続き、下記のテキストを教科書として使用します。 赤林朗・児玉聡編『入門・倫理学』、勁草書房、2018年	
学びの手立て	・授業時には、意識的に疑問点を見つけて書き留めるようにしてください。さらに踏み込んで、どうして自分がそうした疑問をもつのか、その理由についても考えてみてください。 ・授業の復習では、扱った内容を振り返るだけでなく、自分なりに文章化して再現することが重要です。これができるようになるにつれて、授業の理解度も上がっていきます。 ・教科書は繰り返し読んでください。今回使用する教科書はかなり練られた構成なので、講義と合わせて読めば、現代倫理学の基本事項のほとんどがかなりの精度で理解できます。		
評価	リアクションペーパーの提出状況(40%) 学期末試験(60%) ・毎回授業の最後に15分ほどリアクションペーパー記入の時間を設けます。授業内容についてのコメントや疑問を記入して、提出してもらいます。 ・期末試験では、知識を問う問題と記述問題を出題します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目：「倫理学Ⅱ」、「人間文化課題研究Ⅰ」および「同Ⅱ」、「環境の倫理学」など。 次のステージ：さらに哲学に触れてみたいひとは、関心のあるテーマや問題を教師に伝えてください。適切な文献を紹介します。